

情報連絡一覧票（9月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）	
食料品	パン	新店舗がオープンした企業は売上プラスになっているが9月も記録的な暑さの影響、原材料費の値上げ、時給のアップなど厳しい状況。値上げに耐えられる商品の改善、新商品の導入など付加価値のある商品開発に力を注いでいる。	
	酒造	令和6年8月の清酒課税移出数量の特定名称酒は対前年比84.22%と下回った。内訳は吟醸酒80.89%、純米吟醸83.95%、純米酒86.87%、本醸酒88.80%となった。特定名称酒以外の普通酒は対前年比52.98%と下回り、合計で対前年比81.28%と前年を下回る結果となった。	
	ひも	台風と厳しい残暑の影響で、客足が鈍く売上の回復には至らず、結果として昨年の売上を超えなかった。今後、資材等の値上げの連絡も届いており厳しい状況が続くと思われる。	
	化学・ゴム	石油製品	組合員からは、「収益不変、原材料の値上げは継続」、「半導体生産面積が拡大しているが、上流工程での受注は軟調で、回復にはもう少し時間がかかる見込み」とそれぞれ情報が寄せられた。
	窯業・土石製品	砕石	生コンクリートの出荷が依然として減少しており、骨材の出荷も減少した。
製鉄・金属	工業塗装	前年9月は一括受注売上（があり塗装を含む機械加工受注）が多かった。本業の塗装売上は本年9月の方が多し。主力防衛産業の予算増による受注増加が著しく、生産活動は逼迫している。	
	工業団地	9月の共同受電使用量は前月比-1%となった。（前年同月比-0.26%）前期と今期を対比すると、前期+4.87%となった。鑄造業では、材料を仕入れないため製品が作れないため値上げ要請も受けざるを得ない。その分の価格転嫁も2、3か月かかる。また受注も安定しないため資金繰りに厳しさが出てきている。	
	工業団地	大型自動車の販売が思うように伸びていない状況。年度初めからの新安全基準導入による販売価格転嫁の影響が払拭されていない。建設機械産業については一部陰りはうかがえるものの順調に推移。	
	工業団地	業績は好転の兆しが見えてきたが猛暑と稼働率アップが重なって電気代や燃料代の高騰が収益を圧迫している。特に電気代は2倍程度と異常な額になっている会員もある。	
	金属製品	生産調整なのかは不明だが受注減の状態が続いている。中小企業が大幅な賃金UPは厳しく、利益確保にも苦労している。新しい政府に期待。	
輸送機器	艦船製造・修理	造船の原材料の鉄鋼価格は原料の鉄鉱石の価格を大きく反映するが、製鉄各社の懐具合も大きく関わっていると見られている。国策の脱炭素である、CO2の排出を実質ゼロにする期限が2050年。現状鉄鉱石とコークスを混ぜて燃焼させるため大量のCO2を排出している。それをゼロにする為の製鉄法の研究開発費や設備投資で数兆円の予算計上を余儀なくされる事などが鋼材値上げの理由の一つとも言われている。	
その他の製造業	工業中心の複合業種	先月に続き、好転材料は見当たらない。業種に関わらず比較的早く業務を終了している。大手の動きは悪くないようであるが、下請けまではまだまだ回ってこない様子。年内の廃業を考えている企業も出てきている。	
	工業中心の複合業種	工作機械業界の受注実績が前年同月比4%減となった。堅調だった海外向けが伸び悩んだ。半導体製造装置関連の設備投資が動き出している。金属相場の上昇に加えマージンアップも併せて販売価格の上昇に繋がっている。人材不足や人件費高騰に対しては自動化・効率化・環境対応などの新たな需要が期待でき、賃金上昇に繋がれば景気高揚が期待される。一方人材の確保には不安がある。中国経済の失速が今後どう影響してくるか不透明な部分がある。	
卸売業	菓子卸	売上に関しては、先月に引き続き増加傾向のようだが、やはり全てが収益にはなっていないようである。話題として出るのは、人手不足と最低賃金のアップによる影響、そして、リモートワークの減少により、出社する人が増え、社内売店などの復活が有るかという事だが、あまり希望は持てないようだ。	
	卸団地	売上については、前年同月比で増加となったが、新型コロナ禍以前（4年前）と比較した場合、依然減収している状況。（一部の企業では4年前対比増収となっている。）取扱い商品・販売ターゲットによって、業績格差が顕著に表れている。アフターコロナによる世界的な需要増と、ロシアのウクライナ軍事侵攻等による原油高、半導体不足、小麦不足等によって、海外調達遅延、仕入価格上昇、物流経費増加によって、変動費が上昇し、収益悪化が表れている。現時点では、材料等仕入れ価格の上昇、電気料と物流経費増加分を販売価格に一部転嫁実現できた企業もあるが、依然中小企業の大半が転嫁することが、厳しい状況。（売上先により格差がある）物価高等の変動費上昇分を売上転嫁できるか否か、特に中小企業の事業継続の鍵を握るものと思慮。	
	リサイクル	【新聞古紙】 韓国メーカーのみ購買を続けているが、消極的な姿勢が続いている。タイのメーカーの11月到着にて、購入を再開するも、国内の強い需要、プレミアム価格を考慮すると、輸出玉の確保が非常に難しい状況。 【雑誌古紙】 9月は国内需要強、輸出玉確保難のため、海外メーカーは購入できておらず、マレーシアメーカー中心に、数量確保の為、ドル価格値上げを受け入れる可能性がある。輸出玉確保のために、今後の店頭単価値上がり傾向となることが予想される。 【段古紙】 欧州古紙米国古紙の下落を受けて、ベトナムメーカーへの販売ドル価格は下落しており、積極的な購買姿勢は見られない。在庫の緊迫感も見られず、どこまで下がるか、各社様子を見る姿勢が見られる。10月も海上運賃値下げはみられるが、円高基調、ドル価格下落により、店頭単価が下がることが想定される。 【シュレッター】 ユーザーであるベトナムメーカー2社のうち1社は品質要求が非常に厳しくなったことで、もう1社にオーダーが集まったことにより、ドル価格が7月より下落しているが、需給バランスの崩壊から、販売単価が断続的に下落している。	
	機械器具	人手不足倒産が増加しているなか当業界も定年や高齢化によって自然退職後の人員補充が出来ず、売上減退、規模縮小と言った悪循環に陥る会社も出てきている。業務、業態の認知が低くIT業界やコンサルなど働きかたの自由度が高い業種に人気が集集中しており、統一した作業ユニフォームを着用し下積み知識や経験値、コミュニケーション能力を駆使する我々の職場を忌避する傾向があると感じている。	
	リサイクル	古紙市況は、紙製品の国内出荷低下による古紙需給の縮小が続いており、古紙消費は前年度比マイナスとなっているが、段ボール古紙の消費については回復も見られる状況となっている。輸出向けは円高ドル安の為替相場の影響により、軟調ムードである。鉄スクラップ市況は、為替相場の円高ドル安の影響や国内外の需要低下も継続しており、9月末も低調で推移している。ただし、国内の需要面に関しては、夏季減産期明けでの生産回復が見込まれてきている。アルミ市況は、自動車、半導体関連の需要環境が盛り上がり、リサイクル原料市場の方向感が定まらない状態である。10月以降の関心は、自動車産業回復の動きが注目されている。	

情報連絡一覧票（9月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
非 製 造 業	菓 子	酷暑の夏なので。
	酒 販	商品券の販売については、前年同月より増加。累計でも前年を上回っている。使用済商品券の回収は前月に引き続き前年より2割程度ダウンしているが、累計では前年を超えている。販売での収益は少ない為、収益状況はほぼ前年と同じ。
	電 化 製 品	暑くて長い夏の影響でエアコンが家電商品需要を牽引した。家電主要6商品の中で約38%がエアコンの構成となり、冷蔵庫と合わせると約55%の構成で季節指数が高く貢献した夏商戦であった。オリンピック需要を期待したテレビは約21%の構成で終了したが、大型タイプでさらに有機ELモデルが増加し出荷金額が多少アップされた。
	青 果	春先から続く、猛暑の為、高値になる品物が月変わりて変化し、9月は葉物（ほうれん草・小松菜・ネギ等）が、品薄で入手が困難な上、品物が悪く、小売業には辛い日々が続いている。
	青 果	9月に入っても猛暑が続き、農産物全般にわたり多大な影響があり、特に「つまもの」葉物類は、高温障害により、生育悪く出荷量が減少し、荷揃いでは苦戦した。下旬になり、ようやく気温も落ち着いてきたが長引く異常気象の影響が大きく、相場は高値が続き、商品需要も品不足高値のため、低迷し小売販売には厳しい展開であった。総体的には、高値のため、取引量は前年比98%、取引高は前年比102%であり、今後7、8月の猛暑の影響が続くものと思われる。
	鮮 魚	海水温の上昇によるものと思われる「不漁」。入荷量は極端に少ない。
	燃 料	大手元売り会社の26日以降出荷分の石油製品仕切り価格は、前週比2円/Lの値上げとなった。原油コストは米中経済の先行き不安を受けて、軟化傾向が続いたが、当週は3週ぶりに反転した状況である。燃料油激変緩和措置の補助額は、元売り仕切り上昇分とほぼ同水準の1円90銭増額されて、11円60銭になっている状況である。補助金の増額は、8月22日改定分以来5週ぶりとなった。これにより、補助金を織り込んだ実質ベースでは、10銭/Lの上昇で、小幅とはいえ、値上げは4週連続という状況である。9月19日公表の神奈川県のレギュラーガソリンの平均価格は173.0円/Lという状況であり、全国で見れば、1番高い県は、長野県で183.6円となっており、神奈川は34番目で低い状況という結果である。
	共 同 店 舗	通路（道路側の空き店舗）は、入店するが、奥の店舗には入店しない。特に2F。
	タ イ ヤ 販 売	残暑が続き、対前年比で販売本数は横ばいといったところ。冬季のスタッドレスタイヤ販売に向けて、気候が涼しくならないと早期受注が期待できない。神奈川中小企業生産性向上促進事業費補助金を組合全体でサポートできるよう、すすめている。今後も県や市の補助金など組合員にとって有用なものを組合全体でサポートできるよう体制を整えていくつもりである。
商 店 街	藤 沢 市	10月最低賃金上昇を控え、販売価格に転嫁せざるを得ない状況であり、プライスを見直す店舗が少なくない。全体の約4割のテナントが前年売上を超え、お米や加工食品を扱っている店舗は、引き続き好調である。飲食店舗は売上伸び率が高いが、原材料価格と賃金上昇により、収益状況は芳しくない、との報告がある。
	横 浜 市	原材料の高騰に価格転嫁ができていない。人件費も上昇し収益は悪化している。特に物販も最悪である。景気よいのは一部会員と思われる。
サ ー ビ ス 業	温 泉 旅 館 ・ ホ テ ル	8月末の台風は、9月1日、2日まで影響を残し、キャンセルが発生した。9月は3連休が2回あり、売上に大きく貢献した。外国人旅行者が再び多くなっている。特に中国の家族旅行が目立つ。
	建 設 設 計	建築業界では、相変わらず建築資材の高騰が継続している。横浜市では、建物（特に木造住宅）の耐震診断の要請が急増している。原因は、能登の地震の影響と思われる。住民には補助金制度も確立している。その他、小規模な改修計画は随時、公表されている。
	ファイナンシャルプランナー	4月からの営業活動は順調に推移しており、今期残り半年はさらに営業活動を強化していく。
	情 報 サ ー ビ ス 業	一部のプロジェクト縮小が正式に決まったが、要員は何か別プロジェクトへ異動する調整が出来た。今月の衆議院選挙結果しだいで、国内産業・IT企業への影響が懸念される。
	柔 道 整 復 師	今年6月の神奈川県内柔道整復師療養費請求状況は、対前年同月比の93.2%であった。先月末に発生した台風10号の被害が組合員にも発生し、営業ができない組合員がいた。これから台風が発生しやすく、大雨、暴風による来院控えにより、より深刻な経営状況になりえることも考えられる。一方、保険請求に関する患者調査がより厳しくなり、また10月からは柔道整復師療養費改定に伴い、施術を5カ月以上継続し、且、施術回数が月に10回以上通うと請求が従来の半分に減額されることや、それが続くと患者さん自体がいったんいままですら保険請求をこちらでおこなっていた分についても自分で保険請求をして保険者より給付をうけるといったいわゆる償還払いにされるという改定になっていることを考慮すれば、健康を守り、保つためではなく、制度に合わせて患者さんには治してもらおう！という趣旨の押し付けにままならない。人それぞれの状況が違う中、ただ単に保険の削減を目指した改定は、さらなる医療業者の経営悪化を招くことになるだろう。規制すべきを規制し、緩和すべきは緩和していただければ、有資格医療者と無資格医療類似行為を行うものの立場が逆転してしまう。
警 備 業	需要はあるものの不変的な人材不足が続いている。	

情報連絡一覧票（9月分）



























集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
建設業	管 工 事	引き続き、管工機材の売り上げは増えており、受注機会等は若干だがいい傾向のよう。しかし、粗利では減少していると感じているところも多く、値上の影響が出ていると思われ、経営状態に影響を及ぼすことが懸念材料である。また、受注件数は落ち着いてきていると思われ、今後の業界全体の動きに引き続き注視していきたい。
	電 気 工 事	蛍光管が製造中止となるため、LED化の工事が多く公共工事が発注されているため受注できている事業所とできていない事業所の差ははげしい。人材がいればもっと良くなる。
	空 調 設 備 工 事	県内の新築・大型現場は少ない。工場・その他改修工事は多くないが有る。未だに工期遅れ・材料値上げ・人手不足が問題となっている。
	量 工 事	9月も異常な暑さ、台風などにより、仕事は少ない。10月10日から12月19日まで、量替えキャンペーンを行う。（量組合主催）10月20日には、相模原市立産業会館において、量材料展示会開催。少しでも量替え需要増に期待。
運輸業	道 路 貨 物	飲料業界は7～9月の猛暑・残暑で数量が伸びているにも拘わらず、運賃の値上げが難しく、神奈川の一部下請け飲料充填メーカーでは未だに値下げの要求があり、原価割れとなるため輸送の継続が困難という事業者の声も聞かれる。8月下旬～9月は首都圏から地方向けの荷量は増えているが、地方から首都圏向けの輸送は減っており往復のバランスがとれなくなっている。住宅用建材類を運ぶ平ボディーと冷凍・冷蔵食品の荷量は増えているが、その他の一般貨物輸送を行う箱車の荷量は減っている。鉄鋼・自動車部品関連の荷量も減ったままである。
	道 路 貨 物	輸送量 前年同月比 地場（近距離）輸送 △10.0% 長距離輸送 +3.0% 海上コンテナ輸送 +4.0% 重量品輸送 +3.0% 前年より輸送量は若干増えているが、運行3費用（燃料、タイヤチューブ、点検）と人件費の増加により収益が圧迫され、依然として厳しい経営状況が続いている。
	タ ク シ ー	ライドシェアの影響が気になるところだが、今のところ大きな変化は感じられない。今後範囲が拡大するなど、動向には目が離せないところである。
その他の非製造業	歯 科 技 工	売上は製作技工料の値上げにより増加したが、ライフラインを含め材料代の値上がりで経営を圧迫し、収益状況は前年同月並みとなった。社会全体の賃上げムードは、歯科技工所の勤務者も知っている。賃上げをしない（できなかった）歯科技工所から人材離れが発生する。さらに「賃上げのできない（しない）業界」というイメージを持たれてしまうと、成り手不足が、さらに加速することにもなり得る。
	不 動 産	不動産業界においても7月～9月前半は売上げが厳しい時期ではあるが、今年は8月後半から売買・賃貸とも売上げが上昇している。良い傾向ではあるが、秋から年末にかけての繁忙期に影響が出るのでは？という懸念も。
	質 屋	イスラエルのヒズボラ攻撃による中東危機の為に金の国際価格が、かつてないほど高騰し、質屋でも金の買入れが未だ多い状態である。買入れの客は増えているが、高級時計や宝石、ブランドバッグなどの買入れによる高額融資は減り、低価格の生活用品での低額の融資が増えてきたように感じる。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
建設業	神奈川県ダクト工事業協同組合	今の働き方改革は建設業に合っていないので、見直してほしい。
卸売業	卸 団 地	物流費・光熱費等の仕入コスト上昇に対する支援を引続き、継続的に長期的かつ幅広く対応願いたい。インボイス制度導入（国税庁）、電子帳簿保存法改正対応（国税庁）、道路交通法改正による全業種運転者のアルコールチェック義務化（警察庁）等行政による生産性の乏しい事業者管理業務のみを強化している感が否めない。それによる事業者コストをよく考え、必要以上の締め付けに対しては、緩和もしくは見合わせ（法改正を含む）の柔軟性を求めたい。 例）インボイス→軽減税率の廃止・消費税統一、アルコールチェック→業種制限を設定、電子帳簿保存→紙保存・データ保存の選択制も可とする。等 共同施設の修繕補助金、組合団地内インフラ整備補助金等、補助金利用を幅広く柔軟に組合が利用できるようにしてほしい。（受付期間を1～2週間ではなく、1か月等と幅広くお願いしたい）
その他の製造業	工業中心の複合業種	原材料、石油価格高騰への対策を講じて欲しい。中小企業での賃金引上げへの支援策を講じて欲しい。
化学・ゴム	化 学 工 業 団 地	先日、団地内の光ファイバーケーブルが突然断線、ほぼ一日インターネット回線が不通となり、各組合員企業の業務に多大な影響が生じた。今回の断線箇所は、NITの責任分界である公道上の電線であり、自社では対応・交換ができないことから、中央会・行政等から老朽化対策及び点検についてNITへ要請をお願いします。
その他の非製造業	不 動 産	相変わらず家賃滞納・自己破産が続く管理上の影響あり。行政庁へ家賃補助等の検討を。

景況天気図(前年比)

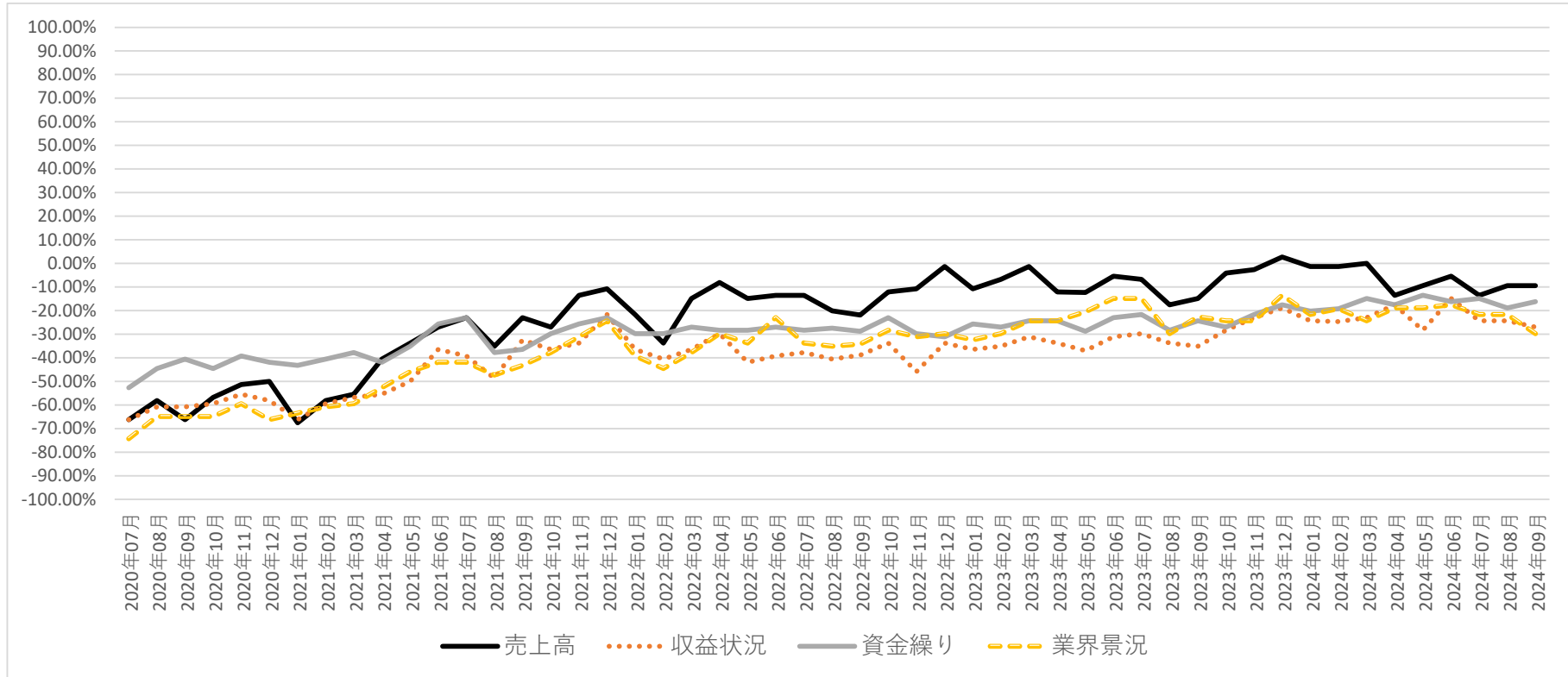
(2024年9月)

	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況
全体	-9.5 %	6.5 %	31.1 %	-5.4 %	-27.0 %	-16.2 %	-4.8 %	-17.6 %	-29.7 %
									
製造業	-14.3 %	14.3 %	28.6 %	-4.8 %	-42.9 %	-23.8 %	-4.8 %	-4.8 %	-38.1 %
									
非製造業	-7.5 %	0.0 %	32.1 %	-5.7 %	-20.8 %	-13.2 %	%	-22.6 %	-26.4 %
							-		

天気図の見方・・・・・・各景況項目について「増加」（または「好転）」業種割合から「減少」（または「悪化）」業種割合を引いた値（KJI）をもとに作成。その基準は次の通りである。ただし、在庫数量はKJI値プラスの時には雨、マイナスの場合には晴れの方向に著した。KJIとは、「神奈川県情報連絡員調査指数」の略である。

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 快晴 | 晴れ | くもり | 雨 | 雪 |
|  |  |  |  |  |
| 30以上 | 10~30未満 | 10未満~△10 | △10未満~△30未満 | △30以上 |

中小企業団体景況グラフ(全業種の主要項目)



本調査は、神奈川県中央会が委嘱した情報連絡員の役職員75名による調査結果です。調査対象は、情報連絡員が所属する組合の組合員「全業種」の景況（前年度同月比）です。

8月の中小企業月次景況調査

〔令和6年8月末現在〕



National Federation of Small Business Associations

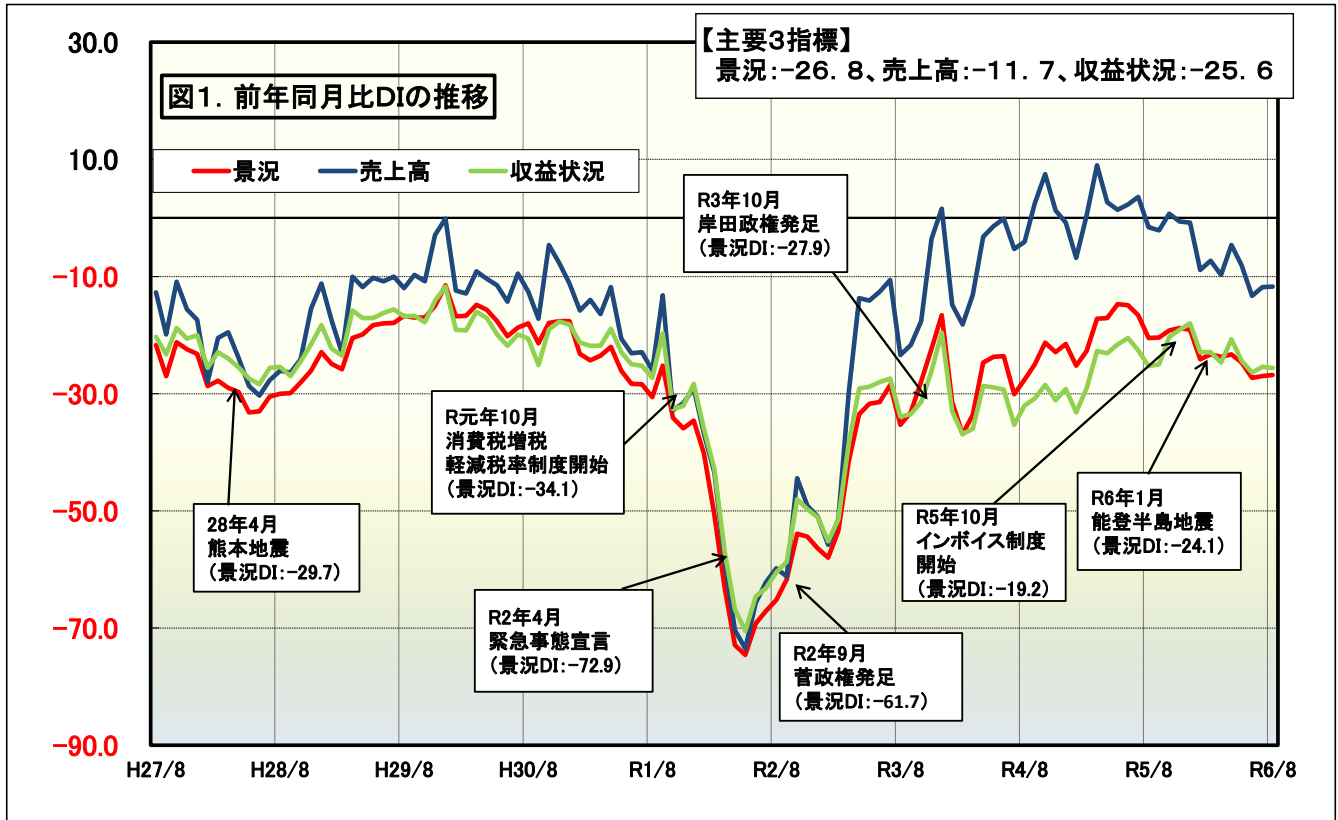
令和6年9月25日発表

◎8月のDIは主要な指標で概ね前月比横ばい。

○お盆休みや夏休み期間中に人流が増加したことから、非製造業を中心に景況感が改善した一方で、需要の減少やコスト高が続いている製造業では景況感が低下。

○引き続き、人手不足・人材確保の問題が、多くの業種で収益力の足かせとなっている。

○最低賃金の引き上げも相まって、賃上げの原資確保に苦慮する事業者からは、経営に与える影響を懸念する声が多く寄せられている。



※DIとは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、好転 (増加・上昇) したとする割合から、悪化 (減少・低下) したとする割合を差し引いた値です。

本調査は、都道府県中央会に設置されている情報連絡員〔中小企業の組合(協同組合、商工組合等)の役職員約2,500名に委嘱〕による調査結果です。
調査の対象は、情報連絡員が所属する組合の組合員の全体的な景況(前年同月比)です。

(本発表資料のお問い合わせ先)
全国中小企業団体中央会
担当：政策推進部
TEL 03-3523-4902
<https://www.chuokai.or.jp>

8月の調査結果のD I 概況

【指標D Iの動向とポイント】

1. 8月のD Iは主な指標で概ね前月比横ばいで推移。主要3指標は、景況が0.2ポイント上昇、売上高が0.1ポイント上昇、収益状況は0.2ポイント低下した。
2. 主要3指標以外では、設備操業度のD Iが4.3ポイント低下した。
3. お盆休みや夏休み期間中に人流が増加したことから、非製造業を中心に景況感が改善した一方で、需要の減少やコスト高が続いている製造業では景況感が低下。

全指標の前年同月比D Iの推移（直近1年間）

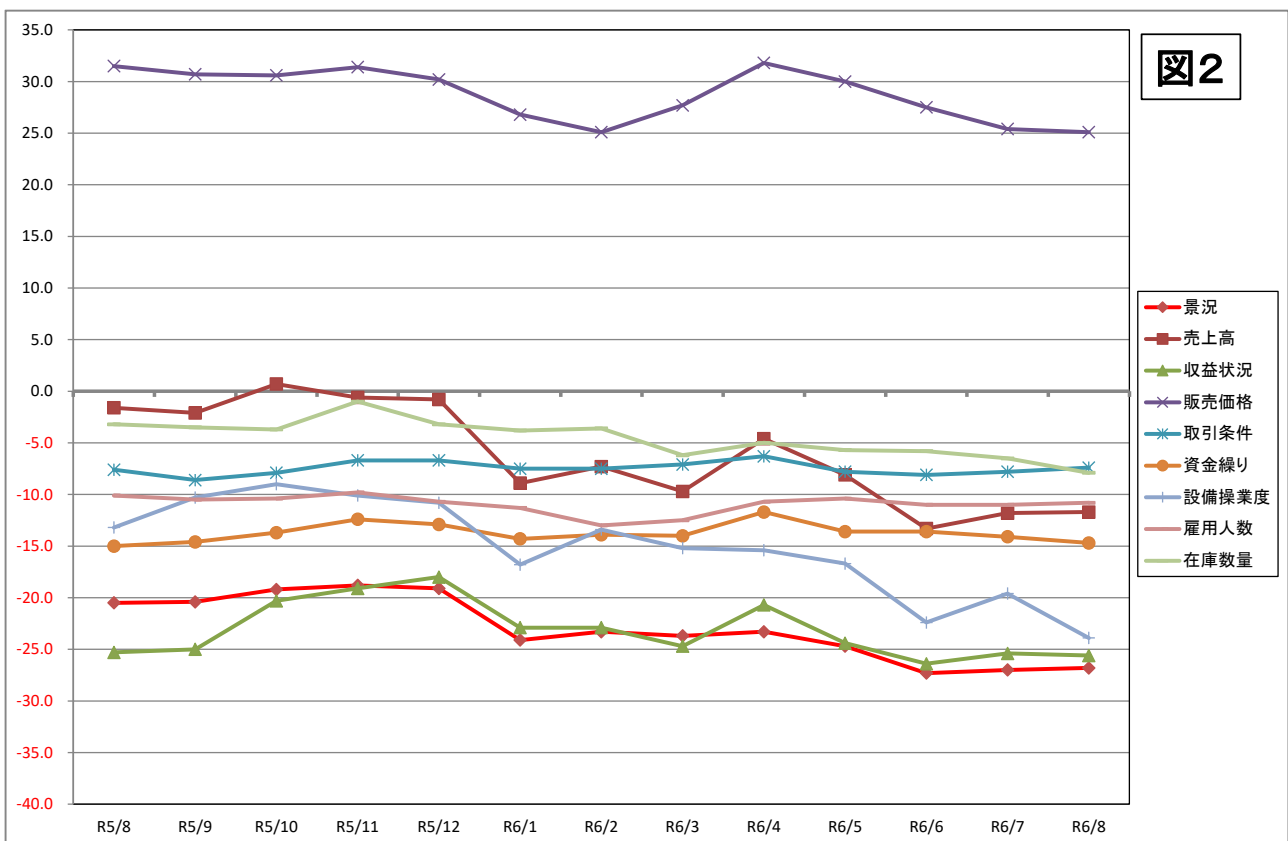


表1	R5					R6								前月比
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	
景況	-20.5	-20.4	-19.2	-18.8	-19.1	-24.1	-23.3	-23.7	-23.3	-24.7	-27.3	-27.0	-26.8	0.2
売上高	-1.6	-2.1	0.7	-0.6	-0.8	-8.9	-7.3	-9.7	-4.6	-8.1	-13.3	-11.8	-11.7	0.1
収益状況	-25.3	-25.0	-20.3	-19.1	-18.0	-22.9	-22.9	-24.7	-20.7	-24.4	-26.4	-25.4	-25.6	-0.2
販売価格	31.5	30.7	30.6	31.4	30.2	26.8	25.1	27.7	31.8	30.0	27.5	25.4	25.1	-0.3
取引条件	-7.6	-8.6	-7.9	-6.7	-6.7	-7.5	-7.5	-7.1	-6.3	-7.8	-8.1	-7.8	-7.4	0.4
資金繰り	-15.0	-14.6	-13.7	-12.4	-12.9	-14.3	-13.9	-14.0	-11.7	-13.6	-13.6	-14.1	-14.7	-0.6
設備操業度	-13.2	-10.3	-9.0	-10.1	-10.8	-16.8	-13.4	-15.2	-15.4	-16.7	-22.4	-19.6	-23.9	-4.3
雇用人員	-10.1	-10.5	-10.4	-9.8	-10.7	-11.3	-13.0	-12.5	-10.7	-10.4	-11.0	-11.0	-10.8	0.2
在庫数量	-3.2	-3.5	-3.7	-1.0	-3.2	-3.8	-3.6	-6.2	-5.0	-5.7	-5.8	-6.5	-7.9	-1.4

【情報連絡員報告から総括する景況調査のPOINT】

1. 原材料価格、エネルギー価格の高騰に加え、人件費の上昇による収益悪化に苦慮しているコメントが、引き続き多数寄せられた。
2. 人手不足・人材確保の問題についても、依然として全ての業種から報告されている。
3. また、賃上げの原資確保に苦慮する事業者からも、引き続き多くのコメントが寄せられている。

《主な報告内容》

◇原材料価格、エネルギー価格高騰、人件費上昇に対する価格転嫁への対応等

- ・資材価格のアップや、10月からは最低賃金がアップすることもあり、更なるコスト増の懸念がある。物価上昇が続いており、パンの販売価格を上げたが年内にもう1度値上げをしないといけない状況になる。年内に2度の値上げは集客減、買い上げ点数減になる可能性が高くなるため見極めも難しい。（神奈川県/パン製造業）
- ・縫製加工費について材料費や人件費が上がっている中、相手先は工賃アップ交渉に理解を示してくれるが、実際縫製加工費は大幅に下落している。その理由として業界全体の生産調整のため、発注元が値段の安くできる工場に発注する傾向になっている。また、縫製工場同士で仕事を取り合うため、コストの下げ合いが発生し、結果的に単価が下落している。（徳島県/縫製業）
- ・荷主や元請けとの運賃値上げを交渉してきたが、今年度に入りコンペ（競争入札）制を導入する荷主や元請けが目立ってきた。コンペ制の導入が、運賃交渉の逃げ道となっている。毎年コンペされると人も車も安心して確保できない中小事業者も増加するであろう。荷動きに変化は見られないが、コスト上昇が収まっておらず、収益は厳しい状況が続いている。（福岡県/道路貨物運送業）

◇人手不足、人材確保の問題に対する経営への影響

- ・シニア IT 人材の確保のために、役職定年の延長や再雇用制度の見直しとそれに伴う待遇改善を進める道内中小 IT 企業が増えている。シニア IT 人材の確保が企業業績を左右する可能性が大きいことから、現状の待遇や役職の維持を含めての継続雇用は、企業やシニア人材にとって、モチベーションの向上、人手不足の解消、技術スキルの伝承、クラウド化案件の獲得等、双方にとって良いことづくめの経営施策となってきている。（北海道/ソフトウェア）
- ・新規事業がある程度安定してきたが、派遣やアルバイトで人員をカバーしているため、人の出入りが激しく、効率も悪くなっている。早急に海外工場からの研修生や外国人（特定技能等）の採用を考える時期に来ている模様である。（埼玉県/電気機器）
- ・電気自動車の市場拡大が進んでおり、普及が進む中国市場をどう攻略するかが大きなカギとなっている。また、人手不足の対応として外国人労働者が重要となっており、外国人技能実習生の受け入れも増加している。（京都府/自動車整備業）

◇賃上げ原資の確保に苦慮する事業者の声

- ・2024年度の最低賃金額が決定し、過去最高額の引き上げとなったが、価格転嫁や賃上げが十分に進んでいない中小企業では、今後の事業運営への様々なマイナスの影響が懸念される。（千葉県/自動車一般整備）
- ・余剰資金が潤沢にある中小企業はほとんどないのが現状で、賃金アップの為様々な挑戦をする中、社会保険料の増額影響も有り、なかなか賃上げは簡単にはできない状況にある。（静岡県/輸送機器）
- ・先の業況が読みづらく、製造期間間近まで発注が出ないことが増え、対応が難しくなっている。また、加工賃がなかなか上がらず賃金だけが上がり、収益状況が悪化している中、地域別最低賃金の上昇を危惧している状況である。（和歌山県/繊維工業）

※ 後述の「Pick up!」ならびに「情報連絡員からの報告（要旨）」等も参照。

1. 景況

	前月	当月	増減	傾向		
全体	▲ 27.0	▲ 26.8	0.2	上昇	↗	
製造業	▲ 35.7	▲ 37.6	▲ 1.9	悪化	↘	
非製造業	▲ 20.3	▲ 18.6	1.7	上昇	↗	
DIが大きく上昇した業種	10ポイント超	なし				
	5～10ポイント	なし				
DIが大きく悪化した業種	10ポイント超	紙・紙加工品				
	5～10ポイント	木材・木製品、印刷、電気機器				

表2. 業種別【景況】DIの推移（前年同月比）

業種名	5/8	5/9	5/10	5/11	5/12	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7	6/8	前月比
全体	-20.5	-20.4	-19.2	-18.8	0.4	-24.1	-23.3	-23.7	-23.3	-24.7	-27.3	-27.0	-26.8	0.2
製造業	-29.6	-27.6	-26.6	-25.9	-25.9	-29.6	-30.4	-32.0	-33.7	-32.4	-35.2	-35.7	-37.6	-1.9
食料品	-21.5	-18.7	-16.5	-20.2	-20.2	-19.4	-17.1	-16.6	-13.4	-19.3	-21.6	-27.2	-22.3	4.9
繊維工業	-26.1	-24.8	-29.2	-26.7	-26.7	-34.5	-33.6	-30.6	-39.1	-41.4	-41.8	-43.2	-45.9	-2.7
木材・木製品	-58.2	-52.7	-51.3	-50.5	-50.5	-55.1	-50.9	-48.2	-53.6	-45.1	-49.5	-45.6	-54.9	-9.3
紙・紙加工品	-52.0	-54.1	-45.9	-36.0	-36.0	-24.0	-41.6	-54.1	-32.0	-36.0	-48.0	-28.0	-44.0	-16.0
印刷	-42.1	-41.0	-35.7	-29.8	-29.8	-43.8	-37.9	-31.6	-50.0	-39.3	-36.2	-47.3	-53.5	-6.2
化学・ゴム	-25.0	-32.2	-21.5	-21.5	-21.5	-21.4	-27.6	-27.6	-21.2	-32.1	-34.6	-25.0	-28.6	-3.6
窯業・土石製品	-41.1	-38.0	-34.0	-31.3	-31.3	-34.1	-35.6	-39.7	-32.0	-35.6	-41.3	-41.9	-39.1	2.8
鉄鋼・金属	-21.8	-23.3	-21.0	-23.0	-29.7	-29.8	-38.1	-41.7	-50.0	-38.6	-39.8	-40.9	-44.2	-3.3
一般機器	-19.8	-14.7	-17.0	-12.6	-15.9	-19.6	-18.0	-26.7	-25.3	-24.7	-37.8	-35.3	-38.5	-3.2
電気機器	-28.6	-21.4	-28.6	-21.4	-20.7	-17.8	-29.6	-32.2	-44.9	-35.7	-17.9	-10.7	-17.8	-7.1
輸送機器	-2.3	4.6	2.2	-2.4	4.5	0.0	-9.1	-16.3	-9.6	-6.7	-8.9	-15.5	-15.9	-0.4
その他の製造業	-19.6	-26.0	-26.0	-27.4	-12.5	-34.0	-28.0	-30.0	-38.0	-38.8	-34.0	-28.6	-29.7	-1.1
非製造業	-13.6	-15.0	-13.6	-13.4	-14.7	-20.0	-18.1	-17.6	-15.4	-18.7	-21.3	-20.3	-18.6	1.7
卸売業	-17.5	-13.0	-12.7	-15.0	-19.1	-22.4	-17.2	-15.5	-14.5	-18.2	-22.3	-22.8	-22.8	0.0
小売業	-20.1	-23.7	-24.2	-24.0	-20.5	-30.8	-26.0	-27.5	-27.9	-30.7	-32.2	-28.9	-25.2	3.7
商店街	-16.3	-21.8	-14.0	-16.4	-13.5	-15.4	-19.3	-18.7	-17.7	-17.4	-21.9	-23.3	-24.7	-1.4
サービス業	6.9	2.8	2.9	4.4	-2.5	-6.8	-2.5	-0.3	5.0	2.2	-4.0	-6.0	-2.9	3.1
建設業	-15.7	-15.0	-15.8	-14.1	-19.1	-18.9	-23.4	-22.7	-19.4	-22.9	-24.3	-20.4	-19.7	0.7
運輸業	-25.2	-26.2	-20.6	-17.3	-14.7	-27.7	-23.8	-24.3	-22.6	-29.1	-27.7	-25.0	-23.4	1.6
その他の非製造業	-27.6	-23.3	-10.4	-17.3	-10.0	-10.0	-13.3	-10.3	-6.6	-13.4	-6.7	-9.7	-6.4	3.3

Pick up!

「小売業」：お盆休みや夏休み期間中に、帰省や旅行により消費が活発化したことから、景況DIは▲25.2と、前月比3.7ポイント上昇。

「紙・紙加工品」：価格転嫁が遅れていることに加え、物価高騰の影響で荷動きが悪かったことから、景況DIは▲44.0と、前月比16.0ポイント低下。

2. 売上高

	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 11.8	▲ 11.7	0.1	上昇	↗
製造業	▲ 19.2	▲ 24.2	▲ 5.0	悪化	↘
非製造業	▲ 6.1	▲ 2.3	3.8	上昇	↗
DIが大きく上昇した業種	10ポイント超	卸売業、小売業、その他の非製造業			
	5～10ポイント	その他の製造業			
DIが大きく悪化した業種	10ポイント超	木材・木製品、窯業・土石製品			
	5～10ポイント	紙・紙加工品、鉄鋼・金属、電気機器、輸送機器			

表3. 業種別【売上高】DIの推移（前年同月比）

業種名	5/8	5/9	5/10	5/11	5/12	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7	6/8	前月比
全体	-1.6	-2.1	0.7	-0.6	-0.8	-8.9	-7.3	-9.7	-4.6	-8.1	-13.3	-11.8	-11.7	0.1
製造業	-10.7	-9.2	-1.8	-5.9	-6.5	-13.7	-13.7	-18.4	-14.6	-15.5	-23.6	-19.2	-24.2	-5.0
食料品	11.7	12.7	15.4	14.5	21.0	4.6	12.1	12.6	8.3	8.1	-3.6	-3.7	-4.6	-0.9
繊維工業	-1.8	-7.0	-0.9	-2.7	-11.4	-15.0	-13.6	-14.4	-13.6	-24.3	-22.7	-26.6	-26.1	0.5
木材・木製品	-49.1	-38.4	-28.3	-33.3	-38.4	-39.4	-39.3	-34.8	-39.3	-40.7	-39.7	-21.9	-41.6	-19.7
紙・紙加工品	-32.0	-41.6	-4.2	-12.0	16.0	-12.0	-25.0	-37.5	8.0	-24.0	-8.0	-8.0	-16.0	-8.0
印刷	-8.7	7.2	-5.4	-10.5	5.2	-15.8	-10.3	-28.0	-30.4	-14.2	-27.6	-29.8	-32.8	-3.0
化学・ゴム	3.6	3.6	3.5	17.9	0.0	-3.6	-24.2	-17.3	-3.0	0.0	-11.5	-25.0	-21.4	3.6
窯業・土石製品	-26.9	-29.4	-17.1	-22.9	-13.0	-23.0	-25.0	-33.6	-8.6	-16.3	-32.7	-24.5	-35.3	-10.8
鉄鋼・金属	-12.7	-15.0	-5.2	-10.0	-19.3	-15.0	-24.7	-44.7	-40.9	-23.5	-29.4	-28.1	-35.1	-7.0
一般機器	-7.9	0.0	8.0	0.0	-4.9	-10.8	-13.0	-16.9	-15.1	-15.9	-30.0	-18.6	-22.1	-3.5
電気機器	-17.9	-25.0	-25.0	-32.1	-38.0	-35.7	-14.8	-14.3	-24.2	-39.3	-39.3	-10.7	-17.9	-7.2
輸送機器	6.8	13.6	28.8	19.1	-4.6	0.0	-6.8	4.7	11.9	-2.2	-2.2	-6.7	-13.6	-6.9
その他の製造業	-17.7	-14.0	-2.0	-3.9	-10.4	-18.0	-10.0	-24.0	-24.0	-26.5	-38.0	-30.6	-21.2	9.4
非製造業	5.3	3.1	2.7	3.6	3.4	-5.4	-2.6	-3.1	2.9	-2.4	-5.4	-6.1	-2.3	3.8
卸売業	10.6	9.4	8.3	13.5	7.8	-1.4	7.4	1.0	9.0	-0.5	-11.4	-4.1	6.0	10.1
小売業	4.7	-1.6	-6.5	-3.1	-4.4	-18.9	-12.3	-10.9	-7.1	-9.6	-10.4	-17.8	-6.9	10.9
商店街	12.4	4.0	3.9	5.7	12.2	-0.7	5.0	-5.6	8.2	-5.6	-5.0	-14.9	-12.7	2.2
サービス業	23.0	16.2	19.5	18.3	14.3	11.1	13.7	11.8	16.5	13.0	5.4	8.9	6.5	-2.4
建設業	-15.7	-10.4	-9.9	-9.4	-8.5	-10.5	-18.8	-11.3	-10.5	-12.5	-10.9	-5.7	-6.4	-0.7
運輸業	-6.3	-1.5	-2.3	-4.7	2.3	-10.8	-8.5	-3.1	3.9	-0.7	-2.3	-3.1	-7.0	-3.9
その他の非製造業	-6.9	10.0	17.3	0.0	3.3	0.0	-6.6	-3.4	13.3	10.0	13.3	-3.3	16.2	19.5

Pick up!

- 「木材・木製品」：住宅価格の高騰等の影響により、新設住宅着工戸数が減少していることから、売上高DIは▲41.6と、前月比19.7ポイント低下。
- 「窯業・土石製品」：生コンクリート業界等では、お盆休みや台風等の影響により稼働日数が少なかったことから、売上高DIは▲35.3と、前月比10.8ポイント低下。

3. 収益状況

	前月	当月	増減	傾向		
全体	▲ 25.4	▲ 25.6	▲ 0.2	悪化	↘	
製造業	▲ 32.0	▲ 32.2	▲ 0.2	悪化	↘	
非製造業	▲ 20.5	▲ 20.5	0.0	不変	→	
DIが大きく上昇した業種	10ポイント超	なし				
	5～10ポイント	その他の非製造業				
DIが大きく悪化した業種	10ポイント超	電気機器、輸送機器				
	5～10ポイント	繊維工業				

表4. 業種別【収益状況】DIの推移（前年同月比）

業種名	5/8	5/9	5/10	5/11	5/12	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7	6/8	前月比
全体	-25.3	-25.0	-20.3	-19.1	-18.0	-22.9	-22.9	-24.7	-20.7	-24.4	-26.4	-25.4	-25.6	-0.2
製造業	-34.0	-30.0	-23.4	-21.7	-21.7	-27.7	-28.9	-31.3	-29.3	-29.6	-31.5	-32.0	-32.2	-0.2
食料品	-23.5	-23.7	-16.0	-15.0	-6.1	-15.3	-13.1	-16.2	-13.4	-13.7	-19.1	-24.1	-19.3	4.8
繊維工業	-36.0	-29.2	-23.0	-22.3	-28.0	-36.3	-30.9	-33.3	-30.9	-33.3	-32.7	-38.5	-44.2	-5.7
木材・木製品	-51.8	-51.8	-40.7	-39.6	-43.9	-49.6	-41.9	-41.0	-42.8	-43.4	-43.2	-42.1	-46.0	-3.9
紙・紙加工品	-40.0	-29.2	-29.2	-32.0	-28.0	-20.0	-41.7	-25.0	-4.0	-20.0	-28.0	-16.0	-16.0	0.0
印刷	-45.6	-48.2	-44.6	-35.1	-26.3	-38.6	-36.2	-35.1	-46.4	-39.3	-48.2	-43.8	-46.6	-2.8
化学・ゴム	-32.2	-35.7	-14.3	-10.7	-21.4	-25.0	-27.6	-24.1	-30.3	-25.0	-23.1	-25.0	-25.0	0.0
窯業・土石製品	-39.6	-32.5	-28.9	-19.9	-19.9	-32.6	-34.8	-35.1	-25.8	-34.1	-32.7	-36.6	-34.6	2.0
鉄鋼・金属	-30.1	-25.6	-22.5	-21.5	-26.7	-23.9	-38.0	-44.7	-40.9	-32.6	-33.8	-34.1	-32.1	2.0
一般機器	-32.7	-18.7	-13.0	-16.5	-16.8	-20.6	-20.0	-30.6	-31.3	-28.8	-34.9	-32.4	-27.9	4.5
電気機器	-28.6	-32.2	-14.3	-21.5	-31.1	-25.0	-22.2	-25.0	-41.4	-39.3	-21.4	-3.5	-14.3	-10.8
輸送機器	-11.3	-9.1	-4.4	-11.9	-20.4	-21.0	-25.0	-30.3	-14.3	-24.4	-17.8	-15.6	-29.6	-14.0
その他の製造業	-37.3	-30.0	-22.0	-17.7	-8.3	-20.0	-30.0	-28.0	-30.0	-30.6	-40.0	-34.7	-38.3	-3.6
非製造業	-18.7	-21.2	-18.1	-17.1	-15.3	-19.3	-18.4	-19.8	-14.2	-20.5	-22.6	-20.5	-20.5	0.0
卸売業	-19.6	-21.9	-16.1	-12.0	-14.3	-17.0	-13.3	-17.1	-15.5	-21.7	-23.3	-17.7	-19.3	-1.6
小売業	-26.5	-29.6	-27.7	-25.8	-20.8	-26.1	-28.5	-29.7	-27.3	-31.1	-32.5	-30.9	-28.6	2.3
商店街	-16.9	-25.2	-19.1	-17.1	-14.8	-21.8	-18.1	-21.8	-14.5	-21.7	-21.2	-29.0	-26.6	2.4
サービス業	0.8	-5.7	-4.7	-5.1	-3.9	-7.9	-7.4	-6.9	2.8	-9.2	-13.0	-8.5	-11.9	-3.4
建設業	-24.1	-22.5	-21.8	-22.1	-22.0	-23.2	-22.6	-23.6	-17.7	-22.1	-22.2	-22.6	-22.3	0.3
運輸業	-29.9	-29.3	-19.8	-19.6	-15.4	-23.1	-20.0	-19.6	-10.9	-16.0	-25.4	-13.3	-15.6	-2.3
その他の非製造業	-31.1	-13.3	-13.8	-17.3	-20.0	-10.0	-13.3	-13.8	-10.0	-3.3	0.0	-6.5	0.0	6.5

Pick up!

「商店街」：夏祭りや花火大会等、各種イベントにより人流が増加したことから、収益状況DIは▲26.6と、前月比2.4ポイント上昇。

「繊維工業」：受注量の落ち込みが大きかったことに加え、価格転嫁が思うように進んでいないことから、収益状況DIは▲44.2と、前月比5.7ポイント低下。

4. 資金繰り、販売価格、取引条件、設備操業度、雇用人員、在庫数量

(1) 資金繰り	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 14.1	▲ 14.7	▲ 0.6	悪化	↘
製造業	▲ 16.9	▲ 17.6	▲ 0.7	悪化	↘
非製造業	▲ 12.0	▲ 12.3	▲ 0.3	悪化	↘
(2) 販売価格	前月	当月	増減	傾向	
全体	25.4	25.1	▲ 0.3	悪化	↘
製造業	20.9	19.7	▲ 1.2	悪化	↘
非製造業	28.8	29.2	0.4	上昇	↗
(3) 取引条件	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 7.8	▲ 7.4	0.4	上昇	↗
製造業	▲ 5.5	▲ 5.7	▲ 0.2	悪化	↘
非製造業	▲ 9.6	▲ 8.9	0.7	上昇	↗
(4) 設備操業度	前月	当月	増減	傾向	
製造業	▲ 19.6	▲ 23.9	▲ 4.3	悪化	↘
(5) 雇用人員	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 11.0	▲ 10.8	0.2	上昇	↗
製造業	▲ 11.1	▲ 11.0	0.1	上昇	↗
非製造業	▲ 10.8	▲ 10.5	0.3	上昇	↗
(6) 在庫数量	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 6.5	▲ 7.9	▲ 1.4	悪化	↘
製造業	▲ 5.3	▲ 7.1	▲ 1.8	悪化	↘
非製造業	▲ 8.3	▲ 9.2	▲ 0.9	悪化	↘

Calendar 2024

～～ 国内外の主なトピックス（令和6年9月）～～

9月6日(金)	7月の景気動向指数：内閣府。景気の現状を示す一致指数は前月比 3.0 ポイント上昇の 117.1 となり、2 カ月ぶりの上昇となった。半導体製造装置や半導体メモリーが好調だったほか、レーダー装置で大型案件があった。
9月9日(月)	7月の国際収支統計：財務省。経常収支の黒字は、前年同月比 15.1%増の 3 兆 1 9 3 0 億円と7月としては過去最大となった。円安の影響で企業が海外から受け取る配当や利子収入の黒字が過去最大を更新した。
9月9日(月)	8月の景気ウォッチャー調査：内閣府。現状判断指数は前月比 1.5 ポイント上昇し 49.0 だった。物価高や円安への懸念が解消しつつあるとして、総括判断は「緩やかな回復基調が続いている」に上方修正した。
9月10日(火)	8月の工作機械受注額：日本工作機械工業会。前年同月比 3.5%減の 1107 億円 7100 万円と4カ月ぶりに前年同月実績を下回った。このうち外需も4カ月ぶりのマイナスとなる同 0.6%減の 785 億 7700 万円で、全体を押し下げた
9月18日(水)	9月の月例経済報告：内閣府。国内の景気判断を据え置き「一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復している」との表現を2カ月連続で維持した。個別項目では飲食などサービス業の倒産が減ったため、判断を引き上げた。

表5. 主要指標の業種別 D I(前年同月比)

(令和6年8月末現在)

	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
全 体	-26.8	-11.7	-25.6	25.1	-7.4	-14.7	-23.9	-10.8	-7.9
製 造 業	-37.6	-24.2	-32.2	19.7	-5.7	-17.6	-23.9	-11.0	-7.1
非 製 造 業	-18.6	-2.3	-20.5	29.2	-8.9	-12.3		-10.5	-9.2

(製 造 業)

業 種 名	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
食 料 品	-22.3	-4.6	-19.3	30.0	-1.1	-16.8	-10.7	-8.6	-11.7
織 維 工 業	-45.9	-26.1	-44.2	12.6	-8.1	-22.5	-27.0	-12.6	-11.7
木 材・木 製 品	-54.9	-41.6	-46.0	-15.9	-15.9	-23.0	-28.3	-10.6	-8.8
紙・紙加工品	-44.0	-16.0	-16.0	32.0	4.0	-8.0	-44.0	0.0	-8.0
印 刷	-53.5	-32.8	-46.6	22.4	-5.1	-17.3	-43.2	-25.8	-13.8
化 学・ゴ ム	-28.6	-21.4	-25.0	28.6	0.0	-17.9	-21.5	-10.8	-3.6
窯業・土石製品	-39.1	-35.3	-34.6	43.6	-6.7	-19.5	-31.6	-18.0	-0.8
鉄 鋼・金 属	-44.2	-35.1	-32.1	19.1	-5.3	-15.2	-25.2	-6.1	-6.1
一 般 機 器	-38.5	-22.1	-27.9	17.3	-2.9	-16.3	-26.9	-5.8	1.9
電 気 機 器	-17.8	-17.9	-14.3	17.9	-7.1	3.6	-10.7	-10.8	-10.7
輸 送 機 器	-15.9	-13.6	-29.6	6.8	-4.6	-9.1	-11.4	-6.8	-4.5
その他の製造業	-29.7	-21.2	-38.3	17.0	-8.5	-27.7	-17.0	-14.8	-6.4

(非 製 造 業)

業 種 名	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
卸 売 業	-22.8	6.0	-19.3	45.0	-6.5	-12.3		-4.5	-4.9
小 売 業	-25.2	-6.9	-28.6	29.2	-17.9	-15.8		-13.2	-13.5
商 店 街	-24.7	-12.7	-26.6	32.9	-16.4	-21.6		-6.9	-5.7
サ ー ビ ス 業	-2.9	6.5	-11.9	31.9	-1.4	-7.2		-9.3	
建 設 業	-19.7	-6.4	-22.3	19.8	-9.9	-10.3		-13.7	
運 輸 業	-23.4	-7.0	-15.6	10.2	1.6	-10.2		-17.2	
その他の非製造業	-6.4	16.2	0.0	32.3	6.5	0.0		0.0	

表6. 主要指標の業種別景況調査総括表(前年同月比)

(令和6年 8月 末現在)

(単位:%)

業種	業界の景況			売上高			収益状況			販売価格			取引条件			資金繰り			設備操業度			雇用人員			在庫数量		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	増加	不変	減少	増加	不変	減少
全体	5.8	61.6	32.6	22.0	44.3	33.7	8.4	57.5	34.0	31.8	61.5	6.7	3.5	85.6	10.9	2.7	79.9	17.4	6.5	63.1	30.4	4.7	79.8	15.5	8.9	74.3	16.8
製造業	3.8	54.8	41.4	17.8	40.2	42.0	7.9	52.0	40.1	26.9	65.9	7.2	2.8	88.6	8.5	2.4	77.6	20.0	6.5	63.1	30.4	5.3	78.4	16.3	8.7	75.5	15.8
非製造業	7.3	66.7	25.9	25.2	47.3	27.5	8.9	61.7	29.4	35.5	58.2	6.3	3.9	83.3	12.8	3.0	81.6	15.3	0.0	0.0	0.0	4.3	80.9	14.8	9.1	72.6	18.3

(製造業)

業種	業界の景況			売上高			収益状況			販売価格			取引条件			資金繰り			設備操業度			雇用人員			在庫数量		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	増加	不変	減少	増加	不変	減少
食料品	6.1	65.5	28.4	27.4	40.6	32.0	11.7	57.4	31.0	32.0	66.0	2.0	3.0	92.9	4.1	2.5	78.2	19.3	6.6	76.1	17.3	5.6	80.2	14.2	7.1	74.1	18.8
繊維工業	2.7	48.6	48.6	12.6	48.6	38.7	6.3	43.2	50.5	20.7	71.2	8.1	4.5	82.9	12.6	0.9	75.7	23.4	4.5	64.0	31.5	5.4	76.6	18.0	5.4	77.5	17.1
木材・木製品	0.9	43.4	55.8	12.4	33.6	54.0	5.3	43.4	51.3	11.5	61.1	27.4	0.0	84.1	15.9	0.0	77.0	23.0	2.7	66.4	31.0	4.4	80.5	15.0	14.2	62.8	23.0
紙・紙加工品	12.0	32.0	56.0	28.0	28.0	44.0	28.0	28.0	44.0	32.0	68.0	0.0	12.0	80.0	8.0	8.0	76.0	16.0	12.0	32.0	56.0	8.0	84.0	8.0	16.0	60.0	24.0
印刷	1.7	43.1	55.2	8.6	50.0	41.4	3.4	46.6	50.0	29.3	63.8	6.9	5.2	84.5	10.3	3.4	75.9	20.7	3.4	50.0	46.6	5.2	63.8	31.0	3.4	79.3	17.2
化学・ゴム	0.0	71.4	28.6	14.3	50.0	35.7	7.1	60.7	32.1	28.6	71.4	0.0	3.6	92.9	3.6	0.0	82.1	17.9	7.1	64.3	28.6	7.1	75.0	17.9	10.7	75.0	14.3
窯業・土石製品	3.0	54.9	42.1	17.3	30.1	52.6	8.3	48.9	42.9	45.1	53.4	1.5	0.8	91.7	7.5	2.3	75.9	21.8	6.0	56.4	37.6	1.5	78.9	19.5	9.0	81.2	9.8
鉄鋼・金属	3.1	49.6	47.3	13.0	38.9	48.1	5.3	57.3	37.4	27.5	64.1	8.4	3.1	88.5	8.4	3.1	78.6	18.3	7.6	59.5	32.8	8.4	77.1	14.5	7.6	78.6	13.7
一般機器	0.0	61.5	38.5	18.3	41.3	40.4	4.8	62.5	32.7	22.1	73.1	4.8	2.9	91.3	5.8	1.0	81.7	17.3	5.8	61.5	32.7	3.8	86.5	9.6	11.5	78.8	9.6
電気機器	14.3	53.6	32.1	25.0	32.1	42.9	21.4	42.9	35.7	25.0	67.9	7.1	3.6	85.7	10.7	17.9	67.9	14.3	14.3	60.7	25.0	7.1	75.0	17.9	10.7	67.9	21.4
輸送機器	11.4	61.4	27.3	18.2	50.0	31.8	4.5	61.4	34.1	13.6	79.5	6.8	4.5	86.4	9.1	2.3	86.4	11.4	15.9	56.8	27.3	9.1	75.0	15.9	9.1	77.3	13.6
その他の製造業	4.3	61.7	34.0	12.8	53.2	34.0	4.3	53.2	42.6	21.3	74.5	4.3	0.0	91.5	8.5	0.0	72.3	27.7	6.4	70.2	23.4	4.3	76.6	19.1	6.4	80.9	12.8

(非製造業)

業種	業界の景況			売上高			収益状況			販売価格			取引条件			資金繰り			設備操業度			雇用人員			在庫数量		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	増加	不変	減少	増加	不変	減少
卸売業	6.4	64.4	29.2	32.7	40.6	26.7	8.9	62.9	28.2	48.0	49.0	3.0	5.4	82.7	11.9	3.0	81.7	15.3				6.4	82.7	10.9	13.9	67.3	18.8
小売業	6.9	61.0	32.1	26.1	40.9	33.0	9.1	53.1	37.7	39.6	50.0	10.4	1.9	78.3	19.8	3.1	78.0	18.9				2.2	82.4	15.4	6.0	74.5	19.5
商店街	7.6	60.1	32.3	19.6	48.1	32.3	7.6	58.2	34.2	40.5	51.9	7.6	1.3	81.0	17.7	0.6	77.2	22.2				5.1	82.9	12.0	9.5	75.3	15.2
サービス業	11.8	73.5	14.7	29.4	47.7	22.9	10.0	68.1	21.9	35.5	60.9	3.6	6.8	84.9	8.2	4.3	84.2	11.5				5.4	79.9	14.7			
建設業	3.9	72.5	23.6	17.2	59.2	23.6	3.9	70.0	26.2	25.8	68.2	6.0	1.7	86.7	11.6	1.7	86.3	12.0				3.0	80.3	16.7			
運輸業	6.3	64.1	29.7	21.9	49.2	28.9	14.1	56.3	29.7	18.0	74.2	7.8	6.3	89.1	4.7	3.9	82.0	14.1				5.5	71.9	22.7			
その他の非製造業	6.5	80.6	12.9	32.3	51.6	16.1	19.4	61.3	19.4	32.3	67.7	0.0	9.7	87.1	3.2	9.7	80.6	9.7				3.2	93.5	3.2			

表7. 全国及び各地域別の【業界の景況・売上高・収益状況】(前年同月比)

(令和 6年 8月 末現在)

〔全国〕

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	5.8	61.6	32.6	-26.8	22.0	44.3	33.7	-11.7	8.4	57.5	34.0	-25.6
製造業	3.8	54.8	41.4	-37.6	17.8	40.2	42.0	-24.2	7.9	52.0	40.1	-32.2
非製造業	7.3	66.7	25.9	-18.6	25.2	47.3	27.5	-2.3	8.9	61.7	29.4	-20.5

〔近畿地方〕

滋賀県, 京都府, 奈良県, 大阪府, 兵庫県, 和歌山県

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	4.5	58.5	37.0	-32.5	15.9	49.6	34.6	-18.7	5.7	56.9	37.4	-31.7
製造業	2.6	54.3	43.1	-40.5	15.5	43.1	41.4	-25.9	3.4	53.4	43.1	-39.7
非製造業	6.2	62.3	31.5	-25.3	16.2	55.4	28.5	-12.3	7.7	60.0	32.3	-24.6

〔北海道・東北地方〕

北海道, 青森県, 岩手県, 宮城県, 秋田県, 山形県, 福島県

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	5.4	60.9	33.7	-28.3	20.9	43.4	35.7	-14.8	7.7	56.9	35.4	-27.7
製造業	1.0	55.2	43.8	-42.8	17.1	38.1	44.8	-27.7	6.7	50.5	42.9	-36.2
非製造業	7.8	64.1	28.1	-20.3	22.9	46.4	30.7	-7.8	8.3	60.4	31.3	-23.0

〔中国地方〕

鳥取県, 島根県, 岡山県, 広島県, 山口県

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	4.6	64.7	30.7	-26.1	26.6	40.2	33.2	-6.6	10.0	58.9	31.1	-21.1
製造業	3.5	57.4	39.1	-35.6	21.7	40.0	38.3	-16.6	8.7	53.9	37.4	-28.7
非製造業	5.6	71.4	23.0	-17.4	31.0	40.5	28.6	2.4	11.1	63.5	25.4	-14.3

〔関東・甲信越地方〕

茨城県, 栃木県, 群馬県, 埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県, 新潟県, 長野県, 山梨県

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	7.0	64.9	28.1	-21.1	26.1	44.8	29.2	-3.1	9.5	59.6	30.9	-21.4
製造業	5.3	58.0	36.7	-31.4	20.1	43.9	36.0	-15.9	9.1	54.2	36.7	-27.6
非製造業	8.2	69.8	22.0	-13.8	30.2	45.4	24.4	5.8	9.8	63.4	26.8	-17.0

〔四国地方〕

徳島県, 香川県, 愛媛県, 高知県

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	2.8	58.5	38.6	-35.8	18.8	44.9	36.4	-17.6	8.5	52.3	39.2	-30.7
製造業	0.0	55.7	44.3	-44.3	15.2	43.0	41.8	-26.6	8.9	48.1	43.0	-34.1
非製造業	5.2	60.8	34.0	-28.8	21.6	46.4	32.0	-10.4	8.2	55.7	36.1	-27.9

〔東海・北陸地方〕

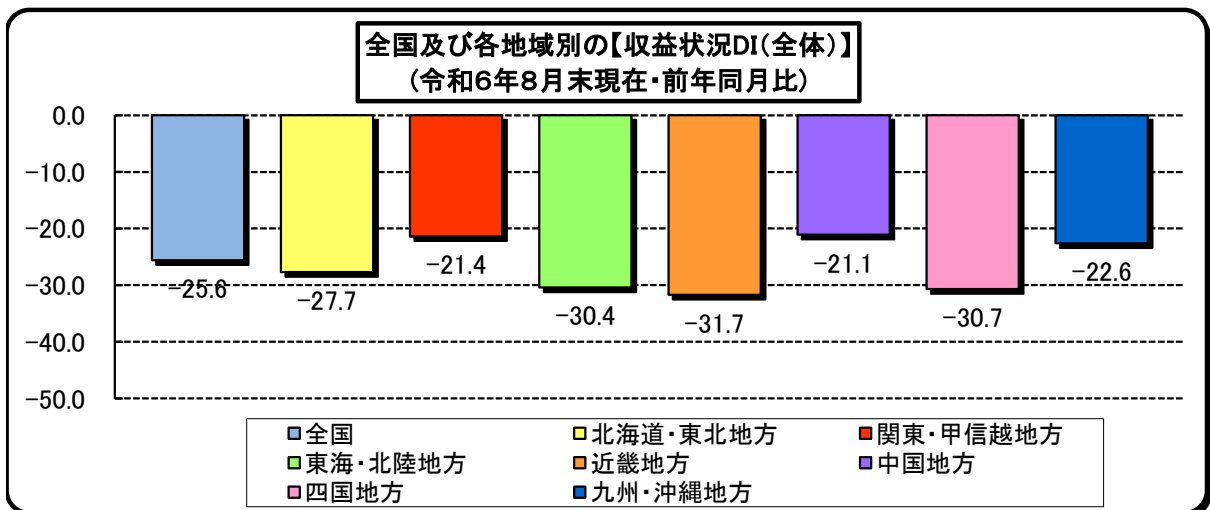
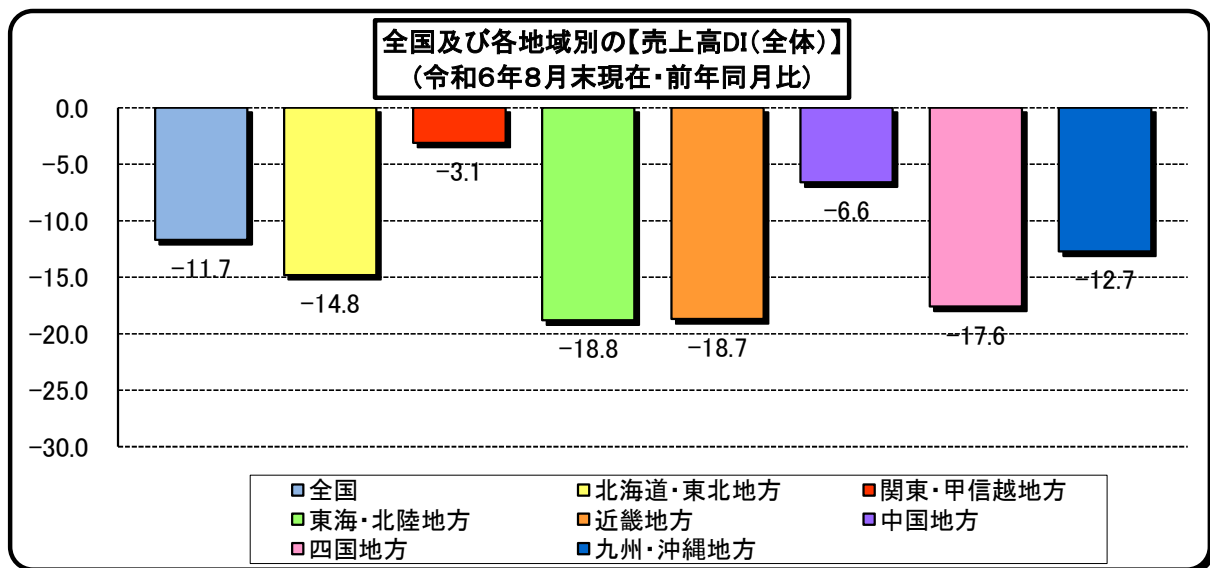
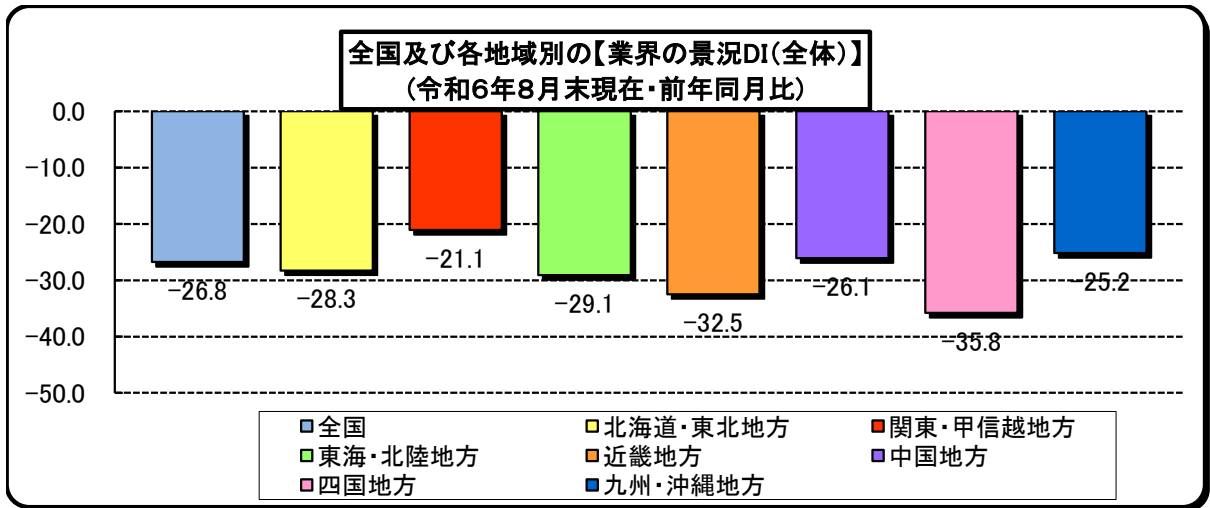
静岡県, 愛知県, 岐阜県, 三重県, 富山県, 石川県, 福井県

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	5.8	59.2	34.9	-29.1	18.7	43.8	37.5	-18.8	7.8	53.9	38.2	-30.4
製造業	4.6	49.7	45.6	-41.0	12.3	37.9	49.7	-37.4	7.2	46.7	46.2	-39.0
非製造業	7.0	68.5	24.5	-17.5	25.0	49.5	25.5	-0.5	8.5	61.0	30.5	-22.0

〔九州・沖縄地方〕

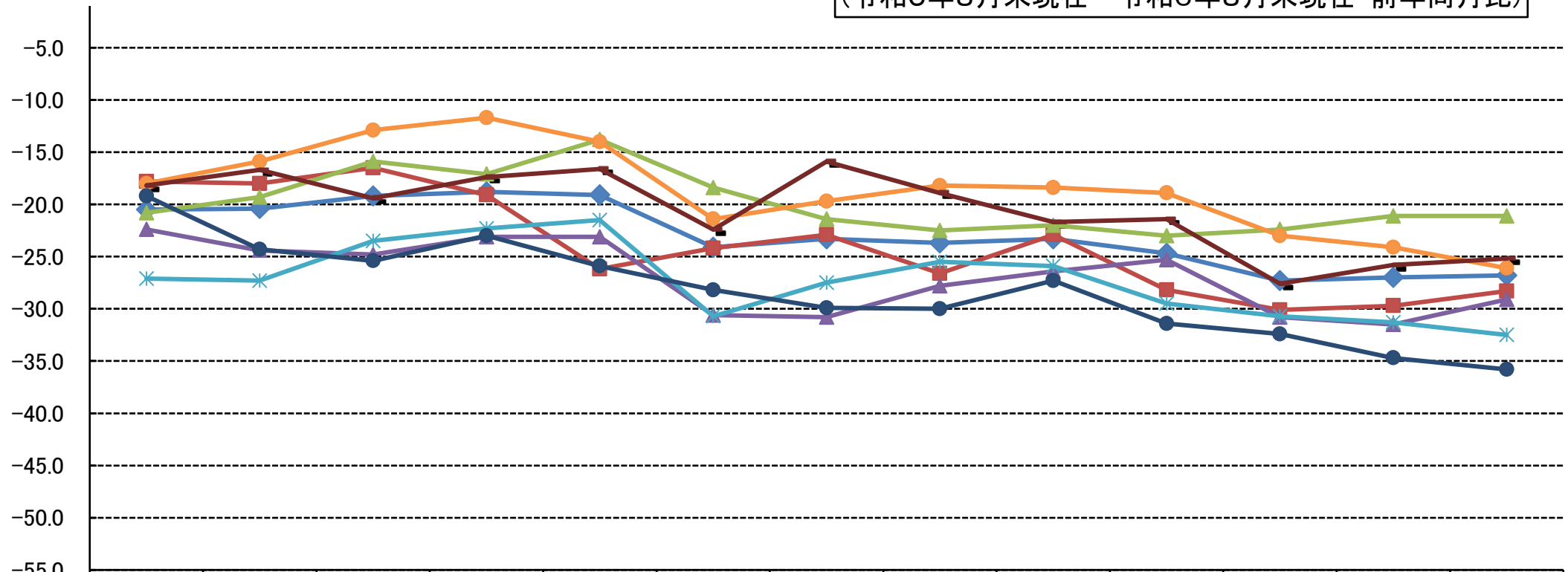
福岡県, 佐賀県, 長崎県, 熊本県, 大分県, 宮崎県, 鹿児島県, 沖縄県

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	7.3	60.2	32.5	-25.2	22.0	43.3	34.7	-12.7	8.6	60.2	31.2	-22.6
製造業	5.5	53.1	41.4	-35.9	21.4	34.5	44.1	-22.7	9.7	55.9	34.5	-24.8
非製造業	8.4	64.8	26.9	-18.5	22.5	48.9	28.6	-6.1	7.9	63.0	29.1	-21.2



- [北海道・東北地方] 北海道, 青森県, 岩手県, 宮城県, 秋田県, 山形県, 福島県
- [関東・甲信越地方] 茨城県, 栃木県, 群馬県, 埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県, 新潟県, 長野県, 山梨県
- [東海・北陸地方] 静岡県, 愛知県, 岐阜県, 三重県, 富山県, 石川県, 福井県
- [近畿地方] 滋賀県, 京都府, 奈良県, 大阪府, 兵庫県, 和歌山県
- [中国地方] 鳥取県, 島根県, 岡山県, 広島県, 山口県
- [四国地方] 徳島県, 香川県, 愛媛県, 高知県
- [九州・沖縄地方] 福岡県, 佐賀県, 長崎県, 熊本県, 大分県, 宮崎県, 鹿児島県, 沖縄県

全国及び各地域別の【業界の景況DI(全体)の推移】
(令和5年8月末現在～令和6年8月末現在・前年同月比)



	8月末	9月末	10月末	11月末	12月末	令和6年 1月末	2月末	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末
◆系列1	-20.5	-20.4	-19.2	-18.8	-19.1	-24.1	-23.3	-23.7	-23.3	-24.7	-27.3	-27.0	-26.8
■系列2	-17.8	-18.0	-16.5	-19.1	-26.2	-24.2	-22.9	-26.6	-22.9	-28.2	-30.1	-29.7	-28.3
▲系列3	-20.8	-19.3	-15.9	-17.1	-13.8	-18.4	-21.4	-22.5	-22.0	-23.0	-22.4	-21.1	-21.1
▼系列4	-22.4	-24.4	-24.8	-23.1	-23.1	-30.6	-30.8	-27.8	-26.4	-25.3	-30.8	-31.5	-29.1
✧系列5	-27.1	-27.3	-23.5	-22.3	-21.5	-30.7	-27.5	-25.5	-25.9	-29.5	-30.7	-31.3	-32.5
●系列6	-18.0	-15.9	-12.9	-11.7	-14.0	-21.4	-19.7	-18.2	-18.4	-18.9	-23.0	-24.1	-26.1
●系列7	-19.2	-24.3	-25.4	-23.0	-25.9	-28.2	-29.9	-30.0	-27.3	-31.4	-32.4	-34.7	-35.8
—系列8	-18.2	-16.7	-19.4	-17.4	-16.6	-22.4	-15.9	-18.9	-21.7	-21.4	-27.6	-25.8	-25.2

- [北海道・東北地方(系列2)] 北海道, 青森県, 岩手県, 宮城県, 秋田県, 山形県, 福島県
- [関東・甲信越地方(系列3)] 茨城県, 栃木県, 群馬県, 埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県, 新潟県, 長野県, 山梨県
- [東海・北陸地方(系列4)] 静岡県, 愛知県, 岐阜県, 三重県, 富山県, 石川県, 福井県
- [近畿地方(系列5)] 滋賀県, 京都府, 奈良県, 大阪府, 兵庫県, 和歌山県
- [中国地方(系列6)] 鳥取県, 島根県, 岡山県, 広島県, 山口県
- [四国地方(系列7)] 徳島県, 香川県, 愛媛県, 高知県
- [九州・沖縄地方(系列8)] 福岡県, 佐賀県, 長崎県, 熊本県, 大分県, 宮崎県, 鹿児島県, 沖縄県

※系列1は全国値です。

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品

1. <秋田県 菓子>
8月は、お盆の帰省等で駅周辺は人が多く行き来していたが、物価高騰の影響により商品の動きが悪く、嗜好品である菓子の購入には結びついていない。
2. <茨城県 菓子>
原材料費など諸経費が10%以上値上げとなっていることから、昨年より販売価格を10%程度値上げしたが、価格転嫁が十分でなく収益状況は悪化している。販売数量は昨年より10%減少している。
3. <東京都 米菓>
売上高はコロナ禍前に戻った。米菓の原料となるもち米やくず米の需給のひっ迫が続き、外国産米（MA米）の需要が高い。また、国産原料米の契約は、大幅な高値となり、組合員の収益悪化が懸念される。
4. <静岡県 パン>
連日の猛暑によりパンの消費量が減少し、売上減となっている。秋に向かい新商品の販売やキャンペーンによる売上の確保と、販売価格の引き上げにより収益の確保を図っていく方針である。
5. <愛媛県 菓子>
お盆期間の人出は、台風や物価高による旅行控えで前年に比べ減少傾向にあったため、手土産菓子の売上も期待を下回った。全体として猛暑により外出すら控えているため、購買行動に繋がらないのが現状である。
6. <佐賀県 菓子>
暑い日が続く、気温も上がり、冷夏菓子等は需要が伸び好調であった。製造コストは依然として高値で推移している状況は変わらないので、販売価格への転嫁も進められている。

繊維工業

7. <秋田県 繊維>
8月の売上高は、組合員平均で前年同月比92%となっている。例年であれば忙しい時期だが受注量は落ち着いており、受注単価が低いままで推移しているため、依然として厳しい状況にある。
8. <東京都 織物>
地球温暖化により当組合の主力商品の販売は低迷傾向にあり、売上が減少している。また、材料費の上昇は、販売価格が上昇する一方、収益減少に繋がり、厳しい状況。
9. <岐阜県 メリヤス>
衣料分野の受注量の落ち込みが厳しい現状は変わらず、生産機の稼働率は5割程度である。毎年3月から10月頃までは、衣料生地受注はそれなりに安定していたが、今年は特に落ち込みがひどい。
10. <福井県 織物>
衣料、スポーツ、産業資材など分野を問わず在庫調整局面が続いており、先行き不透明感が増している。一部の特殊織物を除き、価格改定も一服感があり、人件費等のコストアップに追い付いていない。
11. <和歌山県 繊維>
8月の売上は前年同月より減少した。原材料や人件費などの増加による物価上昇で、消費者の購買意欲の低下が懸念される場所である。
12. <岡山県 繊維>
受注量の減少傾向が続き、取引環境にまで影響が及びつつある。経費上昇の流れの中で、価格転嫁が困難な状況が取引関係にまで及びかねない状況である。

木材・木製品

13. <岩手県 一般製材>
県内の新設住宅着工戸数は、前年同期と比較して25%減の433戸と大幅に減少し、この影響もあり製材品の荷動きが悪い状況が継続している。今後、非住宅分野での需要動向を注視していきたい。
14. <秋田県 一般製材>
8月は、新設住宅着工戸数の減少と製品販売単価の値下げにより、製品販売量が前年同月比82.5%、製品売上高が71.8%となった。なお、製品の販売不振から原木消費量を30%減少するなど調整している。
15. <富山県 一般製材>
県内の新設住宅着工戸数は、前年同月比▲15.0%と先月に続き大幅な下落となり、特に木材が使われる割合が大きい持家住宅については、32カ月連続で前年同月割れと減少し、不振が継続している。

16. <石川県 製材・木製品 >
8月度売上は昨年と比較すると50%程度と大きく下がっている。住宅価格が高騰し着工率が減少した。能登半島地震の復興のための仮設住宅の建設が続いているが、8月中には大方終了すると思われる。
17. <兵庫県 木材・木製品 >
民間建築需要は低迷している。仕事が少なく、原材料、人件費等のコストアップを売値に転嫁できず収益が圧迫されているので、今後の見通しについては非常に不安である。
18. <山口県 製材・木製品 >
組合員の平均売上額は、令和5年8月と比べ10%の減少。住宅需要の低迷等により製材品の売上げ減少が続き、それに伴い設備操業度の低下も続いている状況。

紙・紙加工品

19. <北海道 加工紙 >
繁忙期に入り需要は回復傾向である。副資材や包装資材は値上げになっているが、紙器・段ボールの値上げはいっこうに進んでいない。金融機関から短期プライムレート+0.15%の改定の案内があった。
20. <茨城県 段ボール >
大手も含め全体で昨年より5%から15%ほど生産数量が減少している。資材の高騰分を価格転嫁していく必要がある。
21. <東京都 紙製品 >
少子化の影響で紙製品の売上は落ちている。特に、ノート、学習帳は厳しい状況。また、猛暑の影響で、夏休みにもかかわらず、外出して文具小売店へ足を運ぶ子供が少なく、売上が減少している。
22. <岐阜県 紙加工品 >
物価高騰の影響で荷動きが想定以上に悪い。昨年同月比で売上が5%以上減少した組合員が多い。景況感是非常に悪く、厳しい経営状況となっている。8月も荷動きは悪く、売上回復の兆しはない。
23. <京都府 紙製容器 >
台風などの悪天候により、全体的に売上が悪化している。また、原材料値上げの動きもあり、各社が動向を気にしている。
24. <島根県 紙製容器 >
夏季休業日もあり操業度は低下。また販売先の状況も厳しいものがあり、期待出来るほどの増加は見込めなかった。

印刷

25. <愛知県 印刷 >
原材料やエネルギー価格の高騰、人件費の上昇により景況感厳しい。さらに円安による物価高の影響も印刷需要の伸び悩みに影響しているようである。
26. <富山県 印刷 >
10月出荷分より足並み揃えて各種印刷用紙、インキ、版の値上げが各メーカーから発表され、値上げがいつまで続くのか全く不明である。印刷会社の立場は、益々弱いものとなっている。
27. <石川県 印刷 >
秋以降に各印刷資材メーカーからは5~10%の価格値上げの通達が出されているが、印刷業界では、以前より資材の値上げによる価格転嫁が進んでいない現状があり、全く逃げ場のない状態となっている。
28. <滋賀県 印刷 >
紙をはじめ資材の値上げに関して仕入れ業者から次々と通達があった。ここ数年の間に何度もの資材の値上がりがあり、後の会社の継続を含めて考えなければならない時期に来ているように感じる。
29. <長崎県 印刷 >
資材価格の値上がりが続いている一方で価格転嫁は進んでいない。適切な価格転嫁を促進するため、顧客に理解を求めるための文書を配布するなど、適正化に向けての取り組みを進めている。
30. <宮崎県 印刷・同関連 >
ここに至って、さらに原材料費が値上がりしてきた。最低賃金の上昇とインフレ等による影響かと思う。なかなか価格転嫁ができない状況で、今後の事業運営が厳しくなりそうだ。

化学・ゴム

31. <神奈川県 化学工業 >
販売価格上昇、収益好転であるが、原材料の値上げは継続している。半導体生産が拡大しているが、上流工程での受注は軟調で、回復にはもう少し時間がかかる見込み。
32. <岐阜県 プラスチック >
原材料価格は7月より上昇し、原材料の値上がり分の製品への転嫁だけでなく、労務費や物流2024年問題などによる製品の値上げに取り組んでいる。

33. <奈良県 プラスチック >
円安により原材料費やエネルギーコストが高騰し、人件費も上昇しているが、すべての価格上昇分の転嫁が認められないため、厳しい状況が続いている。優秀な人材を採用したくても賃金基準を引き上げられない。
34. <大阪府 セロトプラスチック >
売上高は前年比でほぼ同じであるが、原材料高や燃料高による製造コストのアップにより収益状況は悪化している。文具関係は少子化の影響で売上が年々減少している。
35. <岡山県 ゴム >
自動車メーカーの操業は戻りつつあるが、まだ前年並みまでは回復していない。引き続き労務費の価格転嫁をお客様へ依頼している。
36. <広島県 プラスチック >
当月は夏季連休や台風の影響で稼働日数が減少したため、操業度は低調であった。一般消費材の需要も動きが重く受注が低迷している。

窯業・土石製品

37. <埼玉県 窯業・土石製品 >
8月は盆休による工場稼働日数減のほか、台風の影響による豪雨により、出荷は対前年同月比55%と低迷している。工事物件は、多少は動きが見え始めたものの、出荷は地域偏在により一部地域に限定されている。
38. <山梨県 骨材・石工品等 >
台風・大雨の影響によって原石の採取ができず、製品需要も低下したことで、前年同月と比べ売上は▲10%、収益状況は▲5%となった。
39. <愛知県 生コンクリート >
東愛知地区において出荷量が激減、昨年比で70%と歯止めがかからない。売値も思ったように上昇せず、売上、収益状況、資金繰りが厳しい状況が続いている。
40. <岡山県 生コンクリート >
岡山県全体の8月累計出荷量は、対前年比85.66%と依然低水準で推移している。今年の8月は、お盆を含む第3週がほぼ全休となったことも出荷量の低減に繋がったと思われる。
41. <徳島県 生コンクリート >
8月の出荷量は昨年同月と比べて約49%減少。8月はお盆休みもあり営業日数が少ないうえコンクリート工事の減少で一段と冷え込んだ。コンクリートを使用した官工事の発注も少なく、非常に見通しが暗い。
42. <長崎県 生コンクリート >
前年同月比において売上高は減少、収益状況及び資金繰りは共に悪化。出荷数量の減少が止まらない。特に官公需の落ち込みが激しく、官公需に依存している地域では厳しい状況となっている。

鉄鋼・金属

43. <宮城県 機械金属 >
大手企業の設備投資意欲が鈍く、売上が減少傾向にある。雇用人員は賃上げが出来ている企業への流動化が始まっており、人員の定着及び確保が困難になってきている。
44. <東京都 金属製品 >
前月は25,000 t、今月は23,000 tとなり、売上減少。販売価格も中国半製品の安売りで暴落。在庫も悪天候の影響で増えず、世界的な鉄鋼需要減にて市況は悪化傾向にある。
45. <鳥取県 金属熱処理 >
盆連休の影響もあり前月比は落ち込んだが、前年同月比とは同程度である。自動車、建設機械を中心として全般にもものづくりが低迷している。電力、ガスなどのエネルギー費が製造コストを押し上げている。
46. <徳島県 鉄鋼 >
業況感に大きな変化はないものの、やや悪化傾向にある。現況においても、収益及び設備操業度ともに低調となっている。また、人員不足も重なり厳しい経営状況がまだ暫くは続きそうである。
47. <香川県 建設用金属 >
昨年から県内見積りは少ない状況が続いており、8月度も県内物件は少なく、商社・鋼材店からの依頼物件で工場稼働率を確保している状況が続いている。
48. <高知県 刃物・金物類 >
価格の改定（値上げ）の関係か、若干受注が少なくなってきたように感じられる。しかしながら受注残はまだ多く、早期の納品を生産者に促していき、売上を伸ばして行きたい。

一般機器

49. <新潟県 機械器具 >
建機関係の景況は最悪。前年の3割、良くても4割。従業員の離職防止のため、今春、給与のベースアップをしたところが多いが、更なる最低賃金の上昇により、さらに経営が苦しいものになっていく見込み。

50. <長野県 一般機械器具 >
一部事業所では受注が落ち込み雇用調整助成金の利用を検討、実施を行うところもある。人手不足解消は進まず、景気回復した場合に受注増に対応できるか不安を感じている事業所が多い。
51. <山梨県 業務用機械器具 >
前年同月と比べ売上・収益状況ともに▲20%となった。物価高騰に加えて半導体関連・設備関連の生産が停滞しており、今年いっぱい厳しい状況が続く予測である。
52. <三重県 一般機器 >
引き合いは停滞したまま、短納期の需要が増えており、1、2カ月先の状況が予測しにくい。国内企業の設備投資意欲が少なく、見積り依頼などの数も少なくなっている。
53. <富山県 金属工作機械 >
受注状況は前年同月比89.46%で、安定してきてはいるが、近年全体的に減少が続いている。急激な落ち込みはないが、徐々に減少しており、底が見えない状況である。
54. <島根県 一般機械器具 >
売上については5～7月で約19%減少。8月についても同程度減少。農業機械、耕作機械ともに低迷しており、回復の兆しも見えない。低迷の要因としては、海外への輸出が減少していることが考えられる。

電気機器

55. <福島県 電子部品 >
自動車車載機器類や電子機器類の受注の戻りが先月の情報より不透明になっている。引き続き生産体制を維持しながら受注増加に対応していく。
56. <長野県 電子機械器具 >
全体的に需要の停滞が続いている。今後の見通しが不透明であり、依然として燃料や材料費に加え人件費の高騰は続くが、売上単価は変わらず、企業努力でどこまで持ちこたえられるか不安との声もある。
57. <山梨県 電気機械器具 >
取引先の夏休みによって受注量が減少、休み明けの動きも悪かった。少額の見積り案件でも価格競争が激化しており、受注まで至らないケースが増えている。
58. <静岡県 電気機械器具 >
8月の生産は、冷蔵庫は販売低迷によりマイナス継続、家庭用エアコンと業務用エアコンは猛暑の影響などにより2カ月連続してプラスとなった。
59. <三重県 電気機器 >
受発注の状況は一向に上向かず、前年度比80～90%程度で推移している。
60. <広島県 電気機械器具 >
売上は前月比▲2.0%、前年同月比▲2.0%となった。中国や東南アジアの電気関係の景況が悪化していることが要因。

輸送機器

61. <神奈川県 艦船製造・修理 >
造船の原材料の鉄鋼価格への影響や景気指標の一つでもある鉄スクラップの国内相場が8月も続落となった。「為替」と「海外安」の外部要因で一気に値下がりが加速した。
62. <愛知県 輸送機器 >
8月は盆休みに加え、台風10号の日本列島への接近に伴う休業が多い中、人件費の上昇、原材料価格の高騰、人手不足等が中小企業にとっては、経営状況の悪化が進む要因となっている。
63. <三重県 輸送機器 >
中国の景気回復には時間がかかりそうで、当面厳しい状況が続く見込みである。物量減少により、残業時間も減少しており、生活費への影響があるなど、消費への悪影響も見える。
64. <兵庫県 輸送用機械器 >
売上高は前年同月比9.4%の増収となった。前月比も好転している。部門別には機械関係18%、プラント部門は48%の減収となったが船舶関係32%、精密機械部門13%の増収により、減収部門をカバーできた。
65. <愛媛県 造船 >
元請け会社は当面の仕事を確保しており、組合員においても仕事量が増加している。仕事量は増えているがマンパワーが不足しているという組合員が多く、人材確保に力を入れている。
66. <長崎県 輸送機器 >
昨年度と比較して組合全体では、造船関係は好転傾向、造機関係(機械・ボイラー・タービン)は不変を維持している。先月との比較でも造船は少しずつだが好転傾向、造機関係も少しだが好転傾向にある。

その他の製造業

67. <千葉県 採石 >
石材出荷は3カ月連続なかったが、今月から出荷が始まり前年同時期を上回り、前年比では24%増の状況である。今後予定される東京湾の新海面処分場の護岸工事建設や横浜港の新本牧地区の護岸工事に期待したい。
68. <神奈川県 複合業種 >
半導体製造装置関連・自動車の需要が思うように伸びず、中国経済の先行き不透明感、ウクライナ・中東情勢などにより、設備投資・工作機械受注が伸び悩む。
69. <愛知県 工業用模型 >
自動車関係は動きが出てきたが、遅れもあり心配な要素も多い。年内は、仕事量もありそうな企業が多い。工作機関係は、波があり安定しない状況である。
70. <石川県 漆器 >
地震後の復旧がなかなか進んでいない中で、仮設住宅への入居で輪島に戻る職人が少しずつ増えている。また仮設工房の完成が50室まで増えたことで、今後、製造作業が少し回復していくことが見込まれる。
71. <奈良県 毛皮革 >
毛皮加工の単価については変わらないが、数量が減少傾向にある。業界の現状としては、後継者問題や設備の老朽化などの課題が出てきているため、対応を検討する必要がある。
72. <兵庫県 その他 >
遅れていた納期分も何とか納入でき、順調な生産に落ち着いてきた企業が多い。相変わらず人手不足で追われているところもあるが目途がたってきた。新たなサンプル作製など新しい仕事も増えてきた企業もある。

《非製造業》

卸売業

73. <宮城県 繊維製品 >
食料品の値上げを受けた買い控えを感じる。経費も様々なものが値上がりの影響を受け、収益確保が難しい。今後の賃金、金利等の上昇へ対応をしなければならず頭が痛い。
74. <山形県 その他の各種商品 >
食料品関連は、外食関連で休日の関連やお盆休みの長期化により出荷が増加。商品単価の上昇が寄与し、収益も改善がみられているが、最低賃金の改定は今後の人件費の上昇を伴い収益を圧迫させる要因となる。
75. <兵庫県 その他の卸売 >
値上げ圧力は一段落する一方で、一部に金利引き上げの動きがあり対応に苦慮している。為替も安定感を欠き、収支が読みにくい。
76. <広島県 総合 >
8月は稼働日数も少なく、猛暑の影響や販売数量の低下により売上は減少傾向が見られた。食品関係は米の品薄・品切状態により仕入業者は仕入の確保に奔走させられる事態となった。
77. <山口県 各種商品 >
多少収益が好転した事業所がある反面、依然として悪化している事業所も少なくない。対策を講じたいが、人件費を抑えることくらいしか思いつかない模様である。
78. <高知県 各種商品 >
お盆時期の地震臨時情報及び月末の台風の影響により、外食、観光の業界は全体的に大きくマイナスになった。原材料の値上げ、油や電気代値上げがあり、十分に販売価格に転嫁出来ず、利益が圧迫されている。

小売業

79. <岩手県 各種商品 >
8月は全業種とも前年超えとなった。要因としては、お盆休暇の長期化で帰省客が増えたことや下旬の涼しい気候によるところ、前年の買い控え期の反動ということが考えられる。
80. <宮城県 花卉 >
お盆という生花店の1年で最大の繁忙期であったが、仕入額や販売価格等で調整をしっかりと行った店舗はかなり利益が出たと話していた。
81. <福島県 共同店舗 >
前月比、前年比とも売上、来店客数共に好調。夏休み、お盆休みで帰省客が増え、異常気象の影響を受けてはいたが実績が伸ばせた。次月は、創業祭でイベントを開催。売上・来店客数増に貢献していきたい。
82. <三重県 電器 >
記録的な猛暑が続き、エアコンをはじめとする季節商品の販売は、県の省エネキャンペーンの追い風もあり販売実績を伸ばす事が出来た店舗も多い。また、消費者の価格高騰に対する不満の声が少なくなっている。
83. <島根県 各種商品 >
前年比、売上高112%、来店客数112.6%と飲食店顧客の需要増に加え一般顧客の来店も増え、売上状況は好調。6、7月は若干不調を感じた飲食店の需要も、観光客が多く今月においては増えているように思う。
84. <長崎県 石油販売 >
酷暑の影響や台風による駆け込み需要によって、需要面では前年実績を上回るSSが大半であった。久しぶりの好実績に胸をなでおろす販売業者は多く、天候による環境が需要を後押しする8月商戦となった。

商店街

85. <青森県 商店街 >
青森ねぶた祭りが開催され、商店街の聞き取りでは人出、売上ともに昨年を上回っているとのことだった。25日には当組合主催の歩行者天国イベントが開催され、家族連れでの来街が目立ち賑わった。
86. <秋田県 商店街 >
8月の売上高は、観光客や帰省客等の増加に加え、物価上昇も起因し、各業種にわたり前年同月比で微増している。
87. <群馬県 商店街 >
地域まつりや花火大会が開催され、猛暑や雨の影響があったものの、多くの人出があり、大変な賑わいをみせた。

88. <新潟県 商店街 >
長岡まつり花火大会は例年より多くの観光客が訪れ、飲食、宿泊業では大いに売上に貢献した。その後、歩行者天国イベントを開催したが、今年一番の人出となり大いに盛り上がり、出店者の売上も大きかった。
89. <富山県 商店街 >
お盆期間中や土日の夏休み向けイベント開催時には商店街の人通りは多く、特に飲食店は賑わっていた。
90. <奈良県 商店街 >
夏休みに入り、商店街への人の流れが増えている。また、駅周辺に観光バスで観光客が訪れ、土産物店などは来店者が多くなっている。飲食店関係は、多くの人で賑わい活気が出ている。

サービス業

91. <岩手県 旅館 >
繁忙期のお盆時期に一部地域にて台風による被害等が発生。交通機関等のキャンセル等も発生。さらに月末にも線状降水帯による大雨の影響等もあり、8月は天候に左右される期間であった。
92. <栃木県 理容 >
各店舗での売上高は、ここ最近大きな変動は見られないものの、資材や光熱費の価格高騰により痛手を受けている店舗も増え、資金繰りが苦しい現状である。
93. <静岡県 宿泊 >
組合員旅館の宿泊人員は、前年比100%と同数になった。8月中旬以降は、南海トラフ地震臨時情報の発表及び台風10号接近に伴うキャンセルが多数発生し、大きな打撃となった。
94. <岐阜県 自動車車体整備 >
工賃の値上げが認められ、販売価格の上昇が半数以上の組合員に見受けられている。消費者物価指数の上昇率は、工賃単価の交渉において反映しやすい指標となっている。
95. <滋賀県 旅館・ホテル >
通常通りの夏の繁忙期を迎えている。大津、草津あたりには、京都、大阪で満室になったインバウンドの需要が流れ込んでいる。今年は災害の多い年でもあり、これからのシーズンは台風の被害に警戒が必要。
96. <沖縄県 ビルメンテナンス >
最低賃金上昇に伴う差額分について、発注者側に年度途中の契約改定を求めても受け入れられず、価格転嫁出来ずに事業者側の負担増に繋がる状況が続いている。

建設業

97. <東京都 鉄骨・鉄筋工事 >
建設業法などの改正に伴い、「適正な請負代金」、「適正な工期設定」、「適切な価格転嫁」での取引を業界全体に浸透させるよう努めている。
98. <山梨県 管工事 >
前年同月と比べ売上は11%増加・収益状況は14%好転した。全国的に管工事の受注高が民間・官公庁ともに好調であり、設備関連工事の需要が高まっていることから、受注体制の強化を進めていきたい。
99. <和歌山県 職別工事 >
和歌山県内の建設現状は先月とさほど変わらず、住宅関連の受注が減少しており、見積りも減少しているところが多い。9月の材料費の値上げが心配である。
100. <福岡県 総合工事 >
資材価格の高止まりや労働者の不足が続いており、建設業界の経営環境は依然厳しい状況にある。また、4月から建設業の時間外労働の上限規制が5年間の猶予期間を経て施行され、この対応も必要となっている。
101. <大分県 総合建設 >
管内の公共工事は、前年度に比べ▲2%減少している。建設業では人手不足が大きな問題であり、担い手の確保・育成が課題となっている。また、「働き方改革」や「生産性向上」の取り組みが課題となっている。
102. <鹿児島県 管工事 >
県内新設住宅着工戸数が発表され、前年同月比で594戸、44.7%減少と大幅に下回った。資材の高騰、人件費の上昇、働き方改革への対応に伴う経費の増加など、収益が悪化する厳しい状況が続いている。

運輸業

103. <青森県 一般旅客自動車 >
売上の減少が止まらない。タクシーの売上減少の原因は少子高齢化によるものが多く、地方公共交通のあり方が問われているが、相談先がなく全ての責任が事業者になっているのではないかと懸念されている。
104. <滋賀県 貨物運送 >
受注高は盆休の影響にて例年通り減少。営業環境は変化なく同じ状況が続いている。燃料価格は値下りに転じたが依然として高い状況。運転手の移動が目立ってきており、対処策等で不安感が大きい。

105. < 和歌山県 道路貨物 >
相変わらず地域内の荷動きが少ないが、猛暑による飲料水関連商品の荷動きが見られる。また、燃料の軽油が高値で安定しており収益率の低下に拍車をかけている。
106. < 山口県 一般貨物自動車 >
荷物運送量・倉庫保管量共に増加、小ロットから大型輸送案件まで、依頼内容が多様化している。引き続き物価高騰に関する値上げ交渉を継続しているが、概ね了承いただいている。人員は安定している。
107. < 徳島県 貨物 >
お盆休みや台風10号の影響で、売上減となった。台風10号では、事前の出荷停止や計画運休をした事業者も多く聞かれ、荷主側の理解も進み、安全面への対策がしっかり行われている。
108. < 熊本県 一般貨物自動車 >
8月は、食品は良く動いたが他は普段通りの荷動きであった。ドライバーの盆休みでも特に混乱することはなかった。関東の支店では2024年問題の影響により、配送できず倉庫が荷物であふれる状況が発生した。

その他の非製造業

109. < 千葉県 輸出入 >
8月に入りインバウンド客が空港内にあふれてきた。当然、日本的な土産品の購買数は格段に増加して、大抵の物販店は賑わいを見せている。売上も前年比・前月比とも、それぞれ110%以上の伸びである。
110. < 新潟県 砂利採取 >
生コン向け骨材の出荷は好調だが、その他の骨材は伸びていない。価格転嫁は進んできているが、業界では更なる値上げを求め、来年度の価格を検討している。
111. < 奈良県 質屋 >
為替の影響を受けて金価格も乱高下している。ジュエリーや高級時計、ブランドバッグの相場は、インバウンドの旺盛な消費を受けて堅調である。
112. < 岡山県 信用組合 >
8月も引き続きその他の融資により柔軟な資金繰り支援対応をおこなった。原材料高騰の影響は続いており資金繰り支援を中心とした事業者支援を図っていく。
113. < 広島県 不動産 >
不動産市場については、マンション販売が鈍化している。新築マンションは建築資材の高騰や人手不足によりコストが上昇し、販売価格が高騰している。戸建住宅については供給宅地不足で取引件数が減少傾向にある。
114. < 福岡県 砂・砂利・玉石採取 >
各地区の需要は減少しており、特に官公需の減少が続いている。